

基準領域 1

基準項目 1-1	資料 1-1-①-1	学生便覧「教職課程について」 p.49
	資料 1-1-①-2	学生便覧「DP,CP,AP」 p8-10
	資料 1-1-②-1	2022年度教職センター活動方針
	資料 1-1-③-1	『横浜商科大学 学生便覧2022』、2022年、p.49
基準項目 1-2	資料 1-2-①-1	再課程認定申請書類
	資料 1-2-①-2	2022年度教職センター運営会議議事録
	資料 1-2-②-1	学則第15条_横浜商科大学教授会運営規定
	資料 1-2-②-2	2022年度教職センター運営会議議事録
	資料 1-2-③-1	横浜商科大学情報メディア課サイト（学生・教職員）
	資料 1-2-③-2	本学HP「キャンパスガイド」
	資料 1-2-③-3	ZOOMオンライン講義マニュアル
	資料 1-2-③-4	Google classroom 使い方マニュアル

基準領域 2

基準項目 2-1	資料 2-1-①-1	学生便覧「DP,CP,AP」 p8-10
	資料 2-1-②-1	年度始めの履修オリエンテーションの案内、履修相談の案内
	資料 2-1-③-1	学生便覧「教職課程について」 p.51
	資料 2-1-③-2	2年次教職オリエンテーション配布資料
	資料 2-1-③-3	年度始めオリエンテーション日程
	資料 2-1-④-1	教職課程教職カルテ（電子版）
基準項目 2-2	資料 2-2-①-1	学生便覧 p.52
	資料 2-2-①-2	2022年度秋学期・教職オリエンテーション（1年生向け）
	資料 2-2-①-3	オリエンテーション日程
	資料 2-2-②-1	教職履修相談（2022年度秋学期オリエンテーション日程）
	資料 2-2-②-2	修学相談のご案内
	資料 2-2-③-1	教職課程Google classroom
	資料 2-2-④-1	オリエンテーション日程
	資料 2-2-⑤-1	教職研修会プログラム

基準領域 3

基本事項 3-1	資料 3-1-①-1	学生便覧「教職課程について」 p49,50,51
	資料 3-1-②-1	学生便覧「教職課程について」 p49,50,51
	資料 3-1-②-3	総合教養センター相互関係図
	資料 3-1-③-1	教職課程科目の各シラバス
	資料 3-1-④-1	学生便覧
	資料 3-1-④-2	シラバス「ICTリテラシー1, 2」
	資料 3-1-⑤-1	シラバス「社会力演習」
	資料 3-1-⑥-1	教職課程科目の各シラバス
	資料 3-1-⑦-1	教職課程履修マップ
	資料 3-1-⑧-1	教職オリエンテーション資料
	資料 3-1-⑧-2	シラバス「教職実践演習」
	資料 3-2-①-1	教職研修会の案内文
	資料 3-2-④-1	「子育て支援プロジェクト」案内用チラシ

現況データ

- 1 教育免許状取得者数
- 2 教職課程における科目別担当教員

#### 4 国際理解D

##### 広東外語外貿大学南国商学院

(Guangdong University of Foreign Studies South China Business College : 広州市 中華人民共和国)

広東外語外貿大学南国商学院と本学の「学術文化交流協定」が2013年に締結されました。春季の休暇を利用して本学学生が1週間ほど同学院に滞在し、中国の都市開発・環境問題・商業施設開発・小売販売について考えるとともに、異文化に対する理解を深めます。

#### 5 スポーツマネジメントコースの資格について

所定の科目を履修し、単位を修得することで、以下の資格の受験資格、または一部の受験科目が免除されます。詳細は、オリエンテーション期間中に説明会を行いますので、希望者は参加して下さい。

**資格名** ●健康運動実践指導者((公)健康・体力づくり事業財団)  
●公認スポーツ指導者((公)日本スポーツ協会)

なお、スポーツに関する施設利用などの都合により、4年間を通じての、事前登録を行います。

#### 6 教職課程について

本学の教職課程では、高等学校一種「商業」の免許が取得可能です。商学科に設置されており、商学科の学生のみが履修可能です。定められた「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目」等の単位を修得して卒業した場合、教員免許状を取得することができます。

##### (1) 教職課程の履修要領

教職課程は大学卒業後、教職につくことを希望する者を対象に設置しています。教員免許を修得するためには、本学で定める卒業に必要な要件を満たすとともに、教育職員免許法に定める必要単位を修得しなければなりません。

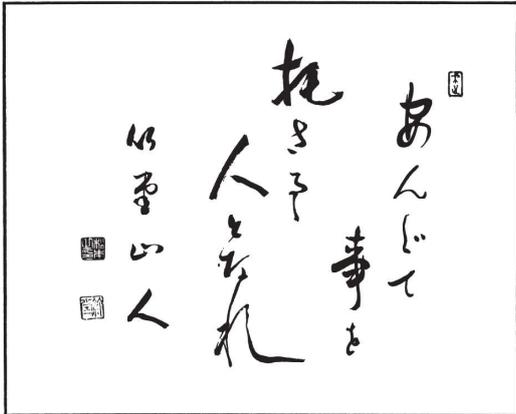
この要件を満たした者には、卒業と同時に教員免許が授与されます。

##### ① 教職課程の履修に関する留意点

教員免許を取得するには、卒業要件とは別に教職課程の科目の単位修得を要します。計画的に卒業要件と教職関連科目の履修を行う必要があります。

2年次から履修可能な教職課程を希望する1年生は、次ページ以降のリストを参考に、1年次から履修できる教職関連科目の単位修得に努め、2年次の4月に実施されるオリエンテーションに、必ず参加してください。

## 建学の精神



1966年開学時の建学の精神―「安んじて事を托さるる人となれ」。半世紀以上の時間が流れた今でも、その精神は色褪せることはありません。

「商学教育の完成」を目的とした実学重視の実践的な学習を通じて「高度な専門知識」と「社会に奉仕する精神」を修得させ、また托された責任をまっとうすることができる「使命感」と「責任感」をも身につけた人材の育成を行うため、ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成実施の方針)、およびアドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)を次のとおり定めております。

### ディプロマ・ポリシー

商学部では、教育基本法および学校教育法に基づき、建学の精神である『安んじて事を托さるる人となれ』を理解し、以下の資質・能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、学士(商学)の学位を授与する。

#### 1 知識を取り込む力(知識・理解)

グローバル化した社会で求められる幅広い教養とモラルを身につけ、商学の基礎となる専門的知識・技能を修得している。

#### 2 問題発見・解決力(思考・判断)

多様な価値が共存する現代社会が抱えるさまざまな問題を発見、分析し、論理的に思考して解決できる。

#### 3 コミュニケーション力(知識・技能)

グローバル化した社会で多様な価値観をもつ他者の意見に耳を傾け、自分の考えを口頭や文章で表現しコミュニケーションできる。

#### 4 社会貢献力(態度・意欲・関心)

社会への貢献を志し、良き市民、良きビジネスパーソンとして行動できる。

#### 5 コラボレーション力(態度)

主体的に行動し他者と協働できる。

#### 6 専門的知識・技能の活用力(思考・判断)

自立したプロフェSSIONALとして事を託される場面で、商学の専門的知識・技能を活用できる。

### カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)

横浜商科大学では建学の精神に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力と専門性をもつビジネスパーソンを養成するため、商学部には商学科、観光マネジメント学科、経営情報学科を置き、以下のような方針に従って教育課程を編成・実施する。

1 職業意識の涵養、コミュニケーション力、コラボレーション力の育成を行い、実際に社会の中で事業や活動を起こすための知識やスキルの基礎を築くことを目標に、学部共通の「社会力基礎科目」を設置する。

2 良き市民、良きビジネスパーソンとして、実社会の中で時代の要請を的確に捉え、「何をなすべきか」を探求するための源泉となる幅広い教養とモラルの修得を目標に、学部共通の「総合基礎科目」を設置する。

3 ビジネスとそのマネジメントに関する基礎的知識の修得、および獲得した知識や技能を統合して課題を解決し、社会へ貢献する行動と態度を育成するために、学部共通の「学部基礎科目」および「学部専門

科目」を設置する。

- 4 学科の専門に即した体系的な専門的知識と倫理的思考力を育成することを目標に、「学科基本科目」および「学科専門科目」を設置する。
- 5 各自の興味に応じた主体的な学びを促すために、学部共通の科目から自由に選択することのできる「学部自由選択科目」、他学科配当科目も含めて学科の科目を自由に選択することのできる「学科自由選択科目」を設置する。

#### 実施の方針

- 1 各授業科目において、授業の目的、到達目標、ディプロマ・ポリシーとの関連、授業計画、成績評価基準を明確にして周知する。
- 2 主体的に問題を発見し、それを解決するために協働し、自らの考えを他者に伝える力の育成のために、多様な教育方法に対応した教室環境を整備し、アクティブ・ラーニングを積極的に導入するなど授業形態や指導方法を工夫する。
- 3 社会に貢献する態度と意欲を向上させるために、地域の企業やNPOと連携した学習やボランティア、インターンシップを積極的に実施する。
- 4 講義管理システムなどを活用することで授業の双方向性を高めるとともに、ノートPCを用いて作成した課題等を蓄積して、教員、学生双方の省察に役立てる。
- 5 学位授与の方針に基づく学習の過程を重視し、在学中の学習の状態を履修状況、成績状況、授業評価アンケート、学生調査などから点検・評価する。

#### アドミッション・ポリシー

本学では、ディプロマポリシーに定める人材を育成するために、以下の要件を満たし、信義誠実を尊重し、ビジネスの世界で活躍したいと考えている意欲溢れる前向きな人材を求める。

- 1 学校等卒業者としての基礎学力と教養、語学コミュニケーション力を備えている人
- 2 高等学校等の課程外でも積極的に知識や技能を身につけてきた人
- 3 明確な目的意識を持ち、社会に貢献する意欲をもつ人
- 4 ビジネスやマネジメントの領域において活躍する意欲のある人
- 5 計画を立て、他者と協力し、問題の解決へ挑む態度をもつ人
- 6 知識や経験を基にして判断し、論理的に物事を表現できる人

### 三学科の教育目標

#### 商 学科

現代の商取引や企業経営に必要となる専門的知識を総合的に修得して現代ビジネスの諸問題を把握し、グローバル化が進むビジネス社会で自律的に活躍できるとともに、高潔な倫理観と強い使命感をもって、社会の変化を捉えた先駆的なビジネスの開拓と創造に貢献できる人材を育成する。

#### 観光マネジメント 学科

観光・ホスピタリティ分野のビジネスとマネジメントに関する専門的知識とともに、それを交流文化の創造や地域の活性化に結びつける応用力をも修得し、観光・ホスピタリティ産業の革新や新たな事業の構想とビジネスの創造を通じた観光立国の推進、観光による国際交流の促進、都市・地域の振興において先駆的な貢献のできる人材を育成する。

#### 経営情報 学科

現代の商取引や企業経営に必要となる専門的知識を情報産業や健康・スポーツ産業に焦点をあてて修得し、現代ビジネスの諸問題を把握し、情報化・ネットワーク化の進展によって急激な変化を続けるビジネス社会の最前線で活躍できる人材とともに、多様性を尊重して地域経済や地域社会を活性化する人材を育成する。

## アセスメント・ポリシー(学修成果の評価の方針)

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)、アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)に基づいて適切に運用されているかを、機関レベル・教育課程レベル・授業科目レベルで評価・検証し、その結果を学位プログラムの改善・進化につなげるサイクルを恒常的に回すためにアセスメント・ポリシーを定めています。

本学のアセスメントにおいては、以下を原則とします。-----

- それぞれのレベルにおいて、評価・検証を行うこと
- さまざまな指標を適切に組み合わせて多面的に評価すること
- ディプロマ・ポリシーに掲げられた能力について適切に評価を行うこと
- 各レベルでPDCAサイクルを恒常的に回すこと
- 学外者や学生の代表を含めた視点からの評価・検証も行うこと

アセスメントの流れ -----

### 1 教務専門部会による授業科目レベルと教育課程レベルのアセスメント

教育課程レベルで示されたものが各授業科目レベルで適切に実施されているか、シラバス、定期試験、成績分布、授業評価アンケート等を通じて検証・評価し改善に繋げる。

### 2 学科会議による教育課程レベルを中心としたアセスメント

主に教育課程レベルにおいてカリキュラム・ポリシーが適切に実施されているかを検証・評価し、改善する。

### 3 大学運営会議による機関レベルを中心としたアセスメント

機関レベルを中心に、3つのポリシーが適切に実施されているか検証・評価し、改善する。

### 4 自己点検・自己評価委員会による中・長期のアセスメント

中・長期的な視点から、機関レベルにおいて3つのポリシーが適切に運用・改善され、全学的なPDCAサイクルが回っているかを検証し、各レベルに必要なフィードバックを行う。

### 5 アドバイザリー・カウンスルによる外部からのアセスメント

各レベルにおいて3つのポリシーが適切に機能しているか、また社会からの要請・信頼に応えられているかを検証・評価し、各レベルに必要なフィードバックを行う。

2022年4月1日

教職センター運営委員各位

教職センター長 東風 安生

## 2022年度 教職センター運営委員会 活動方針

本年度は、以下の目標をかかげ本学の建学の精神にのっとり、教職課程を履修する学生に対する教育活動を推進していく。

### 【目標】

- 1 教員養成教育の円滑で効果的な運営および実施を図るために、「教育実習」をはじめとする各科目について、関係機関や兼任講師と本学の教職課程に関わる教職員が十分な連携を図る。
- 2 教職課程の業務に関して、アドミッション広報部をはじめとする各部署との連携を図り学生の将来の教職に関わる道を拓く。
- 3 本学卒業生教職員との連携を図るため、同窓会教員支部との連携を密にする。同窓会教員支部が主催する教職研修会（夏・冬）2回の開催をサポートしていく。
- 4 教職課程に関する質保証の視点から、2022年度末までに自己点検評価に関する報告書を作成して、これを公開できるように準備する。必要に応じて、全国私立大学教職課程協会等に指導を求めて、報告書を作成するために充実を図る。
- 5 2023年度以降に予定されている教員の資質向上のための講習会の準備を、国の動きを見ながら進めていく。
- 6 対面式の教員免許更新講習会が廃止されていく過程で、卒業生で教員経験者や現役教員との連携や親睦の方法について、新たな道を拓いていく。

### 【具合的な活動内容】

- 1 兼任講師と定期的な連携をとり、履修に関する意見や指導方法に関する声を聴く。  
学生に関しての情報ももらいながら、多面的多角的に学生を評価し、次の指導に生かす。  
学生自身の教職課程を学んだことで自分自身を振り返る時間を大切にするために学生自身の省察に力を入れていく。具体的には、本学教職課程履修学生が受け取る「教職課程履修者カルテ」を活用していく。（4年生については「教育実習記録」も加える）
- 2 教員採用試験のオリエンテーションを充実させる。必要に応じて教育委員会からの説明を聴き、教職課程の履修学生が、教職の道を現実に歩む支援を行う。（GoogleClassroom）  
教員採用試験に向けて必要な書籍等情報をそろえていく。
- 3 教育実習に向けて学生が自主的に学ぶ機会をもてるように「教職の集い」を開催したり、教育実習校が決定していない学生との面談の機会を設けたりする。
- 4 秋と冬に定期的実施している教職研修会は、現役の教員と教職を履修している学生との貴重な交流の機会となっている。学生にとって、先輩から具体的な学校現場での指導方

法や生徒の実態を学ぶ場として、今後とも充実させる。

- 5 教職課程の質保証のために自校での自己点検評価報告書の作成に向けて、全私教協や関東地区・神奈川県各ブロックの教職課程協会と連携しながら、次年度の公開へ向けて準備を進める。

#### 【教職センター運営委員会の定期開催について】

- ・これまでの実践記から、年間6回程度の定期的会議を実施する。
- ・その他、必要に応じて臨時に開催することがある。

・開催予定日時（各月下旬の火曜日の午前11時～12時にZoomで行うこととする。）

5月31日（火） 午前11時～12時

7月26日（火） 午前11時～12時

9月27日（火） 午前11時～12時

11月29日（火） 午前11時～12時

1月31日（火） 午前11時～12時

3月28日（火） 午前11時～12時

※教職MTを開催の前の週までに行い、議題等の整理を行う。

#### 【その他】

- ・教員採用試験に向けて
  - ・神奈川県教委委員会において過去問題のコピーを得る。（県庁にて平日実施）
  - ・教科「商業」の教員採用選考試験問題の分析、問題収集
  - ・模擬試験の受験
- ・教員採用に向けて、
  - 同窓会教員支部との情報交換（2021年度は非常勤講師の採用について2件あり）
- ・教職の道を支援する相談コーナー開設（通称「教職の集い」）
  - 会場（ ）
  - 日時 不定期
  - 内容
    - ・採用試験自主勉強に対するフォローアップ
    - ・教育実習受け入れ校の相談
    - ・教育実習模擬授業の練習（例；板書指導の練習等）
    - ・教職関係キャリア相談
    - ・その他

#### 4 国際理解D

##### 広東外語外貿大学南国商学院

(Guangdong University of Foreign Studies South China Business College : 広州市 中華人民共和国)

広東外語外貿大学南国商学院と本学の「学術文化交流協定」が2013年に締結されました。春季の休暇を利用して本学学生が1週間ほど同学院に滞在し、中国の都市開発・環境問題・商業施設開発・小売販売について考えるとともに、異文化に対する理解を深めます。

#### 5 スポーツマネジメントコースの資格について

所定の科目を履修し、単位を修得することで、以下の資格の受験資格、または一部の受験科目が免除されます。詳細は、オリエンテーション期間中に説明会を行いますので、希望者は参加して下さい。

**資格名** ●健康運動実践指導者((公)健康・体力づくり事業財団)  
●公認スポーツ指導者((公)日本スポーツ協会)

なお、スポーツに関する施設利用などの都合により、4年間を通じての、事前登録を行います。

#### 6 教職課程について

本学の教職課程では、高等学校一種「商業」の免許が取得可能です。商学科に設置されており、商学科の学生のみが履修可能です。定められた「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目」等の単位を修得して卒業した場合、教員免許状を取得することができます。

##### (1) 教職課程の履修要領

教職課程は大学卒業後、教職につくことを希望する者を対象に設置しています。教員免許を修得するためには、本学で定める卒業に必要な要件を満たすとともに、教育職員免許法に定める必要単位を修得しなければなりません。

この要件を満たした者には、卒業と同時に教員免許が授与されます。

##### ① 教職課程の履修に関する留意点

教員免許を取得するには、卒業要件とは別に教職課程の科目の単位修得を要します。計画的に卒業要件と教職関連科目の履修を行う必要があります。

2年次から履修可能な教職課程を希望する1年生は、次ページ以降のリストを参考に、1年次から履修できる教職関連科目の単位修得に努め、2年次の4月に実施されるオリエンテーションに、必ず参加してください。

高等学校一種「商業」の教科及び教科の指導法に関する科目と単位数(横浜商科大学学則別表第4より)

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	履修年次	備考	必要単位数	必修	選択	
教科に関する専門的事項	商業の関係科目	社会学	1	総合基礎	24		2	
		商学基礎	1	学部基礎		2		
		経済学基礎	1			2		
		マーケティング1	1	学部専門			2	
		会計学1	1				2	
		経営学1	1				2	
		民法1	1				2	
		マクロ経済学	2				2	
		ミクロ経済学	2				2	
		会計学2	2				2	
		経営学2	2				2	
		会社法1	2				2	
		商取引法	2				2	
		ビジネスとAI	1	学科基本			2	
		初級簿記1	1				2	
		初級簿記2	1				2	
		マーケティング2	2				2	
		工業簿記	2				2	
		会計監査論	2	学科専門			2	
		会社法2	2				2	
		経営管理論	2				2	
		経営組織論	2				2	
		財務諸表論	2				2	
		財務諸表分析	2				2	
		商品開発論	2				2	
		人的資源管理論	2				2	
		租税法1	2				2	
	租税法2	2				2		
	税務会計	2				2		
	戦略的経営論	2				2		
	保険論	2				2		
	民法2	2				2		
	金融論	3				2		
国際経済学	3		2					
中小企業論	3		2					
教職科目	職業指導1	3	学科自由選択	2				
職業指導2	3	2						
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む)	商業科教育法	3	教職科目	4				
計 必修12単位、選択36単位以上を履修すること								
※選択科目 (1) 教科及び教科の指導法に関する科目(本表)						12	66	
(3) 大学に独自に設定する科目(次ページ)								

## (2) 教育の基礎的理解に関する科目等

教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	履修年次	必要単位数	必修
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育の思想・歴史及び教育課程	2	10	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教師論	2		2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育の行政及び学校経営	2		2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2		2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2		2
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 教育方法論(ICT活用を含む) 生徒・進路指導の理論と方法 教育相談		2 2 2 2
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習講義 教育実習	3 4	5	3
	教職実践演習	教職実践演習	4		2
	計(23単位必修)				23

## (3) 大学が独自に設定する科目

教科または教職に関する科目	科目名	履修年次	選択
大学が独自に設定する科目	道徳教育の研究	2	2
	青年心理学	2	2
計(4単位選択)			4

※「道徳教育の研究」(2単位)を修得することが望ましい。

## (4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	科目名	履修年次	必要単位数	必修	選択	備考
日本国憲法	日本国憲法		2	2		
体育	スポーツ演習		2	2		
外国語コミュニケーション	English Conversation 1	1	2		1	①または② ①1年次必修 ②
	English Conversation 2				1	
	中国語会話3				1	
	中国語会話4				1	
情報機器の操作	コンピュータ活用1		1	1		
	コンピュータ活用2		1	1		
計(8単位必修)			8	6	4	

授業コード	3910310001		
科目授業名 [付記情報]	教育の行政及び学校経営/旧 教育原論2	単位数	2
開講学期	2022年度 春学期	授業区分	週間授業
		曜日時限	火曜5限
教員氏名(カナ)	圓山 賢吾 (マルヤマ ケンゴ)		

教員の実務経験有無	有	実務経験	元公立小学校教諭、主幹教諭、副校長、校長 教育委員会の職員として社会教育講座及び青年関係事業を担当
授業の目的と概要	日本の教育制度に関する歴史や法を知り、教育の行政及び学校経営について理解する。 また、地方教育行政、学校で実際に行われている事例等を学び、教育の行政及び学校経営について考察する。		
到達目標	1、日本の教育の歴史、法、諸制度など教育に関する基本的なことを理解する。 2、学校や教育委員会で実際に行われている学校経営、教育行政について理解し、他者に説明したり文章で表現できたりする。		
履修上の注意	本講義は教職履修者のみが受講可能です。		
ノートPCの利用	毎回PCを持参してください。 連絡等は、Google Classroomを通じて行います。		
教科書・教材	資料を、Google Classroom等で配布します。		
参考文献	授業時に適宜、紹介します。		

## ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応

4 : 当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる					
3 : 当該資質・能力を育成するのにあてはまる					
2 : 当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる					
1 : 当該資質・能力を育成するのにあてはまらない					
知識を取り込む力	4	問題発見・解決力	3	コミュニケーション力	3
社会貢献力	2	コラボレーション力	2	専門的知識・技能の活用力	4

成績評価方法	定期試験：50% 毎回の課題：30% 授業への参加度：20%
--------	--------------------------------------

## ルーブリック

ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用してください。
-----------------------------------------------------------------------------

	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点	評価基準			
1 知識・技能 (40%)	1 教育行政及び学校経営に関する内容について、完全に理解し、それらを正確に説明できる。	2 教育行政及び学校経営に関する内容について、おおよそ理解し、それらを説明できる。	3 教育行政及び学校経営に関する内容について、部分的に理解し、それらを説明できる。	4 教育行政及び学校経営に関する内容について理解できず、それらを説明できない。
2 思考力・判断力・表現力 (30%)	2 教育行政及び学校経営に関するテーマについて、深く思考し、正確に判断し、適切に表現できる。	3 教育行政及び学校経営に関するテーマについて探求することで、おおよそ思考し、判断し、表現できる。	4 教育行政及び学校経営に関するテーマについて探求することで、部分的に思考し、判断し、表現できる。	5 教育行政及び学校経営に関するテーマについて探求することで、思考し、判断し、表現できない。
3 主体性・協働性 (30%)	3 教育行政及び学校経営に関して、主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現を協働的な学びの中で身に付けることができる。	4 教育行政及び学校経営に関して、主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現を協働的な学びの中で身に付けることがおおよそできる。	5 教育行政及び学校経営に関して、主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現を協働的な学びの中で身に付けることが部分的にできる。	6 教育行政及び学校経営に関して、主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現を協働的な学びの中で身に付けることができない。

4		4		4		4		4
		1		2		3		4
5		5		5		5		5
		1		2		3		4
6		6		6		6		6
		1		2		3		4

試験・レポート等に対するフィードバック	提出物は、コメントを添えて返却します。
---------------------	---------------------

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）			
事前学習	前時で示した、キーワード等について調べておいてください。	時間	1時間
事後学習	授業後にレポート提出があります。	時間	1時間

授業計画	
第1週 テーマ	オリエンテーション
第1週 学習内容	それぞれの学校教育経験から考える学校についてまとめる。 レポートの書き方、提出方法について説明し、作成する。
第2週 テーマ	教育行政、学校教育の歴史
第2週 学習内容	学制発布からの学校教育制度、教育行政の変遷を理解する。
第3週 テーマ	教育に関する法律
第3週 学習内容	教育基本法と学校教育法を中心に教育法令について理解する。
第4週 テーマ	国の教育制度・行政と学校
第4週 学習内容	国の教育行政組織と制度について学び、それがどのように学校と関連しているのか考察する。
第5週 テーマ	地方の教育行政と学校
第5週 学習内容	地方教育行政組織、制度について学び、それがどのように学校教育と関連しているのか考察する。
第6週 テーマ	就学前教育・義務教育
第6週 学習内容	就学前教育・義務教育について理解する。
第7週 テーマ	後期中等教育、高等教育
第7週 学習内容	後期中等教育、高等教育について理解する。
第8週 テーマ	学校経営と学級経営
第8週 学習内容	学級経営と学校経営を理解し、その関連性について考察する。
第9週 テーマ	生涯学習
第9週 学習内容	生涯にわたる学びについて理解し、生涯学習の基礎を学校教育で培っていることについて考察する。
第10週 テーマ	学校経営と教職員、組織
第10週 学習内容	学校においては教員だけでなく様々な職員が関わり、組織的に運営されていることを理解し、教員としてどのように関わっていくべきか考える。
第11週 テーマ	学校経営と家庭、地域、諸機関との連携
第11週 学習内容	学校と家庭・保護者との連携、地域との協力、関係諸機関との連携の実際について理解する。
第12週 テーマ	学校経営と教育課程、教育計画
第12週 学習内容	学校の教育課程について理解し、教育計画の作成による実施について理解する。

第13週 テーマ	学校経営と新しい課題
第13週 学習内容	ICTの活用、SDGs、ウェル・ビーイング等現代的課題を理解し、これからの学校にどのように生かしていくべきかを考える。
第14週 テーマ	学校の安全と危機管理
第14週 学習内容	学校安全と危機管理について理解し、事例を通して対応を考える。 最後に、それぞれの学校経験から考えていた学校と、学びによって得た学校像を比較・考察する。
備考	
備考	

授業コード	3910210001				
科目授業名 [付記情報]	教育の思想・歴史及び教育課程/旧 教育原論1		単位数	2	
開講学期	2022年度 春学期	授業区分	週間授業	曜日時限	金曜4限
教員氏名(カナ)	東風 安生 (コチ ヤスオ)				
教員の実務経験 有無	有	実務経験	・元公立小学校教諭 ・元私立小学校教諭、私立小学校教頭 ・元学校法人早稲田実業学校評議員 以上の実務経験を活かして、学校現場における教師の現像を多方面（学級担任の立場、管理職の立場、経営者の立場）から紹介し、その課題と解決方法について学生と共に考えていきます。		
授業の目的と概要	教育をめぐる基本的な事象および諸概念を修得する。				
到達目標	・日常生活に深く関わりながら意識されていない「教育」の意義を他者に対して説明することができる。 ・教育学における基礎的な概念や用語について説明することができる。 ・自分自身の教育に対する考え方を構築して文章で表現することができる。				
履修上の注意	【本講義は教職履修者のみが受講可能です】 毎回の資料はGoogle Classroom上に掲載する。 毎回のレポートについてはGoogle Classroomに提出する。				
ノートPCの利用	毎回授業でノートPCを利用する。 必ずノートPCの充電を十分にしておくこと。				
教科書・教材	高橋浩・金田健司『教育の本質と教師の学び』（学文社）2019年 2400円				
参考文献	大村はま『新編 教えるということ』（ちくま学芸文庫）				

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応					
4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる					
3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる					
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる					
1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない					
知識を取り込む力	4	問題発見・解決力	3	コミュニケーション力	3
社会貢献力	2	コラボレーション力	2	専門的知識・技能の活用力	4

成績評価方法	定期試験...70% 授業に対する取り組み...30% ※授業ごとに自分自身のふりかえりを記述する。これを担当教員がルーブリック評価基準を基に評価をする。 「S」4点 「A」3点 「B」2点 「C」1点 14回の授業のうち、ふりかえりコメントの評価がよいものから10回分を自分自身の授業への取り組みの評価として、カウントする。 (例) A君 ①A ②B ③A ④S ⑤欠 ⑥A ⑦A ⑧C ⑨A ⑩A ⑪B ⑫C ⑬A ⑭A A君の授業に対する取り組み ? 8回分×3点「A評価」 2回分×2点「B評価」 合計28点
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ルーブリック				
ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用してください。				
	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点	評価基準			
1 知識・技能 (40%)	1 教育の本質・目的・内容・方法に関する基礎理論を完全に理解し、それらを正確に説明できる。	1 教育の本質・目的・内容・方法に関する基礎理論をおおよそ理解し、それらを説明できる。	1 教育の本質・目的・内容・方法に関する基礎理論を部分的に理解し、それらを説明する。	1 教育の本質・目的・内容・方法に関する基礎理論を理解できず、それらを説明できない。
2 思考力・判断力・表現力 (30%)	2 教育に関するテーマについて、自己の見解を求めるために深く	2 教育に関するテーマについて、自己の見解を求めるために	2 教育に関するテーマについて、自己の見解を求めるために部	2 教育に関するテーマについて、自己の見解を求めるための思

		く思考し、正確に判断し、適切に表現することができる。	およそ思考し、判断し、大部分を表現することができる。	分的に思考し、判断し、表現することができる。	考や判断ができず、表現することもできない。
3	主体性・協働性 (30%)	3 1	3 2	3 3	3 4
4		4 1	4 2	4 3	4 4
5		5 1	5 2	5 3	5 4
6		6 1	6 2	6 3	6 4

試験・レポート 提出物は確認の上、返却します。記載内容における重要な気づきやクラスの相乗効果が得られる情報等に対するフィードバック は、授業内で紹介します。提出されたミニットカードや授業に対する感想・質問には、Google Classroomを通して、コメントを付けて返却する。

授業時間外の学習内容 (※学習時間は講義1回あたりに必要な時間)			
事前学習	反転学習の要領で、事前に指定した教科書の該当ページを読んでおくこと。分からない言葉や不明な文章などをしらべておくこと。	時間	3時間
事後学習	ワークシートやポストイットなどの付箋を貼った模造紙やホワイトボードを撮影した場合は、必要に応じて写真を撮影して、アップロードする。授業で完成できなかったワークシートは、自力で完成させて、Google Classroomにアップロードしておくこと。 教員採用試験を受験する場合には、教育に関する基本事項の問題などについてはこの科目の内容を問われる場合が多い傾向にあるので、復習が大切である。	時間	1時間

授業計画	
第1週 テーマ	教育の必要性
第1週 学習内容	野生児の記録を検討することによって、人間の子どもが人間的・社会的環境において、保育・養育されてはじめて人間的成長を遂げ得ることを理解する。
第2週 テーマ	教育の本質
第2週 学習内容	無意図的教育作用としての「形成」という概念との対比のなかで、意図的教育作用としての「教育」の機能を理解していく。
第3週 テーマ	教育の目的
第3週 学習内容	現代日本における教育目的を規定している「教育基本法」の教育目的観と、「学習指導要領」における教育目標とを検討し、教育が目指すべき理念と目的を認識する。
第4週 テーマ	教育課程の意義
第4週 学習内容	前週の教育目的を実現するために、学校教育において「何を教えるか」を規定した「教育課程」の意味を考えていく。そして今日の学校教育の教育課程を規定している「学習指導要領」の内容も検討する。
第5週 テーマ	教育課程の類型(1)
第5週 学習内容	これまでの教育学の歴史の中で提起されてきた「カリキュラム」の議論を検討する。今週は教材内容を系統的に教授することを重視する「教科中心カリキュラム」を検討する。
第6週 テーマ	教育課程の類型(2)
第6週 学習内容	今週は子どもの自主性・主体性を重視して彼らの自由な活動を通して学習することを基本に教育活動を展開していく「経験中心カリキュラム」の意義を検討する。
第7週 テーマ	教育課程の類型(3)
第7週 学習内容	全2回の授業で取り上げた「教科中心」と「経験中心」の両カリキュラムそれぞれの長所と短所を明らかにしつつ、両者を統合した現代のカリキュラムの意義を認識する。

第8週	テーマ	学習指導の原理
第8週	学習内容	「よい授業」とは何かを議論しつつ、それを満たしていくにはいくつかの原理的な要素があることを理解し、5つの原理を提示しながら授業の在り方を検討していく。
第9週	テーマ	学習指導論の類型(1)
第9週	学習内容	授業の指導方法には教科書に沿いながら「教師中心」に展開していく「系統学習」と、子どもの自由な活動を中心に授業を展開していく「経験学習」とがあることを理解する。
第10週	テーマ	学習指導論の類型(2)
第10週	学習内容	これまでの教育学の歴史の中で提示されてきた学習指導の理論の主要なものを取り上げて、それぞれの特徴を把握したうえで、各自の授業観を形成していく。
第11週	テーマ	学習指導案と授業の展開(1)
第11週	学習内容	授業の展開にはいくつかの節目があり、授業全体の構成の在り方をまず理解する。そのうえで「学習指導案」の基本形式を把握する。
第12週	テーマ	学習指導案と授業の展開(2)
第12週	学習内容	前週の授業で理解した授業展開の基本的あり方をふまえて、モデルになる「学習指導案」をいくつか検討して各自の「良い授業」の展開についての理解を深めていく。
第13週	テーマ	近代学校の成立と展開
第13週	学習内容	「学制」以降の明治期・大正期の我が国における学校教育制度の展開を概観し、学校教育が我が国の近代化にいかなる役割を果たしたかを認識する。
第14週	テーマ	日本の学校制度の変遷
第14週	学習内容	日本の学校教育制度の展開を、「複線型」→「分岐型」→「単線型」の三つのタイプの学校制度の展開として把握し、今日の「教育基本法」体制下における教育理念を把握する。
備考		
備考		

授業コード	3911630001				
科目授業名	[付記情報]	教育実習	単位数	3	
開講学期	2022年度 春学期～秋学期	授業区分	春学期（集中講義）、秋学期（集中講義）	曜日時限	春学期（集中講義）、秋学期（集中講義）
教員氏名(カナ)	赤松 千春（アカマツ チノル）				
教員の実務経験有無	有	実務経験	私立高校、公立高校において商業科教員として勤務経験があります。実務経験をもとに教育実習の準備や心構えについて講義します。		
授業の目的と概要	教育実習の目的は教育の実践現場に参加することによって、生徒や教師との直接的接触を通して、教育活動に必要な教育知識と技術を身につけることである。また経験ある指導教諭のもとで実践的な体験をし、教員となるための基盤を獲得するところに教育実習の意義がある。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の授業で学んだ教職専門の知識や技術、幅広い教養を生かして教育実習を行い、教員に求められる使命感や責任感を認識することができる。</li> <li>当面する問題点に対する改善策を創意工夫する能力・技術を修得することができる。</li> <li>ICTを活用した指導力を修得することができる。</li> </ul>				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講義で学ぶにあたって、これまで教職課程で学んできた知識・技術をしっかり復習しておくこと。</li> <li>本講義は教職履修者のみが受講可能です。</li> </ul>				
ノートPCの利用	PCを使用する場合は事前に指示する。				
教科書・教材	教育実習を考える会編『教育実習の常識』（蒼丘書林）				
参考文献					

## ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応

4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる					
3：当該資質・能力を育成するにあてはまる					
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる					
1：当該資質・能力を育成するにあてはまらない					
知識を取り込む力	3	問題発見・解決力	3	コミュニケーション力	4
社会貢献力	3	コラボレーション力	3	専門的知識・技能の活用力	4
成績評価方法	教育実習校からの「教育実習評価表」 90%		課題提出 10%		

## ルーブリック

ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用してください。
-----------------------------------------------------------------------------

	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点	評価基準			
1 学習指導	学習内容を深く理解し、完全に準備することができる。また、学習指導の方法・技術も的確である。	学習内容を理解し、準備することができる。また、学習指導の方法・技術も的確である。	学習内容を理解し、最低限の学習指導の準備をすることができる。	学習内容を理解していないため、最低限の学習指導の準備をすることができない。
2 生徒指導	場面に応じて立ち位置を柔軟に変え、集団全体を意識することができる。また教師として適切に対応することができる。	場面に応じて立ち位置を変え、集団全体を意識することができる。教師として対応することができる。	場面に応じて適切に対応することができる。	場面に応じて適切に行動することができない。
3 校務への参加	意欲的にクラス運営や課外活動・学校行事に参加し、時間を守り、規律とけじめ	クラス運営や課外活動・学校行事に参加し、時間を守り、規	クラス運営に参加し、時間を守ることができる。	時間を守ることやけじめをつけることができない。

		をつけることができる。	律とけじめをつけることができる			
4	4 — 1		4 — 2	4 — 3		4 — 4
5	5 — 1		5 — 2	5 — 3		5 — 4
6	6 — 1		6 — 2	6 — 3		6 — 4

試験・レポート等に対するフィードバック	小レポート及び教育実習の反省レポートは、添削の上返却する。
---------------------	-------------------------------

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）

事前学習	これまで教職課程で学んできた知識・技術を復習しておく。	時間	2時間
事後学習	教育実習での体験を振り返り、今後の課題は何かをレポートの形にまとめてみる。	時間	2時間

授業計画

第1週	テーマ	教育実習の意義と目的
第1週	学習内容	教育実習で何を学び、何を身に付けるべきかを明らかにする。
第2週	テーマ	教育実習生の心得
第2週	学習内容	教育現場で実習生が留意すべき事項は何かを明らかにする。
第3週	テーマ	授業観察の意義と在り方
第3週	学習内容	実習中に実施される授業観察の意義を明らかにし、またその有効な方法を身に付けていく。
第4週	テーマ	教材研究の方法
第4週	学習内容	研究授業に向けて行う実習中の教材研究の在り方について学ぶ。
第5週	テーマ	教育実習中の生徒指導・特別活動の在り方
第5週	学習内容	教育実習中に行うべき生徒指導や特別活動をどのように取り組み、何を学ぶべきかを明らかにする。
第6週	テーマ	教育実習校での実践
第6週	学習内容	教育実習校において指導教諭の指導を受け、授業観察・教壇実習・生徒指導・特別活動などを体験的に学ぶ。
第7週	テーマ	教育実習校での実践
第7週	学習内容	教育実習校において指導教諭の指導を受け、授業観察・教壇実習・生徒指導・特別活動などを体験的に学ぶ。
第8週	テーマ	教育実習校での実践
第8週	学習内容	教育実習校において指導教諭の指導を受け、授業観察・教壇実習・生徒指導・特別活動などを体験的に学ぶ。
第9週	テーマ	教育実習校での実践
第9週	学習内容	教育実習校において指導教諭の指導を受け、授業観察・教壇実習・生徒指導・特別活動などを体験的に学ぶ。
第10週	テーマ	教育実習校での実践
第10週	学習内容	教育実習校において指導教諭の指導を受け、授業観察・教壇実習・生徒指導・特別活動などを体験的に学ぶ。
第11週	テーマ	教育実習校での実践
第11週	学習内容	教育実習校において指導教諭の指導を受け、授業観察・教壇実習・生徒指導・特別活動などを体験的に学ぶ。
第12週	テーマ	教科指導についての反省

第12週 学習内容	実習中に実施した授業について、グループワークで反省点を話し合い、今後の課題を明らかにする。
第13週 テーマ	実習全体の振り返り
第13週 学習内容	実習全体を通して学び取ったことや今後の課題などをグループワークで話し合い、今後教師としての資質をどのように高めていくか、またICTをどのように活用していくべきかを明らかにする。
第14週 テーマ	教育実習反省レポートの提出と発表
第14週 学習内容	実習後の振り返りの授業を通して確認した内容をレポートにまとめ、その要旨を順番に発表する。
備考	
備考	

授業コード	3911520001		
科目授業名 [付記情報]	教育実習講義	単位数	0
開講学期	2022年度 秋学期	授業区分	週間授業
曜日時限	金曜2限	教員氏名(カナ)	赤松 千春 (アカマツ チノリ)

教員の実務経験有無	有	実務経験	私立高校、公立高校において商業科教員として勤務経験があります。実務経験をもとに教育実習の準備や心構えについて講義します。
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習に必要な知識・技能・態度・心構え等を学ぶことを目的とする。</li> <li>・教師、教職にかかわる情報収集に努め、教育問題を考察する習慣を身につける。</li> <li>・ICTを効果的に活用した指導方法を収集・分析する。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職を志す社会人としてのマナー、各教科の授業を考察し教育実習の準備を獲得することができる。</li> <li>・大学で学んだ教職課程・理論に触れながら教員に求められる基本的な資質・能力を養うことができる。</li> <li>・教育者としての使命感と規範意識を深め、教員としての指導力や適性についての自覚を高めることができる。</li> <li>・ICTを活用しながら対面指導と遠隔・オンライン指導を使いこなす(ハイブリッド化)ことができる。</li> </ul>		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業に際しては、十分な教材研究を行い、綿密な学習指導案を作成して臨むこと。</li> <li>・2/3以上の出席がない場合は単位を取得することができません。</li> <li>・遅刻2回で欠席1回とみなします。</li> <li>・常に教育に関する情報収集に努め、時事問題を考察する習慣をつけること。</li> <li>・本講義は教職履修者のみが受講可能です。</li> </ul>		
ノートPCの利用	PCを使用する場合は事前に指示する。		
教科書・教材	Google classroomにて資料を配布、または必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献	文部科学省 『高等学校指導要領解説 商業編』 実教出版 産業教育振興中央会編 『月刊 産業と教育』 実教出版 教育実習を考える会編 『教育実習の常識』 (蒼丘書林)		

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応			
4 : 当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる			
3 : 当該資質・能力を育成するのにあてはまる			
2 : 当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる			
1 : 当該資質・能力を育成するのにあてはまらない			
知識を取り込む力	3	問題発見・解決力	3
コミュニケーション力	4	コミュニケーション力	4
社会貢献力	3	コラボレーション力	3
専門的知識・技能の活用力	4	専門的知識・技能の活用力	4
成績評価方法	模擬授業の取り組み 60% 試験・課題 20% 授業参加・授業態度等 20%		

ループリック
ループリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの
評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用して
ください。

	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点	評価基準			
1 模擬授業(教材研究)	効果的な学習方法を取り入れ、興味関心を持たせる授業展開にするために授業の内容や構成まで見通した豊かな教材研究ができています。	興味関心を持たせる授業展開にするために授業の内容や構成まで見通した豊かな教材研究ができています。	学習内容の専門知識があり、授業をするために最低限必要な教材研究ができています。	授業を展開するための教材研究ができません。
2 模擬授業(技術)	学習内容が深まる発問を柔軟にすることができ、聴衆の様子を観察しながら板書し、思考を促すよう	聴衆の様子を観察しながら板書し、思考を促すように授業を展開している。また	ICTを活用し、思考を促すように授業を展開している。	ICT活用ができていない。

		に授業を展開している。また適切なICT活用ができています。	適切なICT活用ができています						
3	学習指導案の作成	3 1	教科の目標を深く理解し、指導内容と留意点を明確にした効果的な学習指導案を作成することができる。	3 2	教科の目標を理解し、授業を実施するための学習指導案を作成することができる。	3 3	必要最低限の学習指導案を作成することができる。	3 4	学習指導案を作成することができない。
4		4 1		4 2		4 3		4 4	
5		5 1		5 2		5 3		5 4	
6		6 1		6 2		6 3		6 4	

試験・レポート等に対するフィードバック	課題をチェックして授業中に総評コメントをし、改善点を伝えます。
---------------------	---------------------------------

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）			
事前学習	模擬授業に向けて、教材研究・指導案の作成を行う。	時間	2.5
事後学習	・模擬授業の振り返りを行い、授業で改善点を探る。 ・教育に関連する情報を収集し	時間	1.5

授業計画	
第1週 テーマ	オリエンテーション・教育実習の意義
第1週 学習内容	教育実習講義の目的と概要について。（意義と心構え）
第2週 テーマ	学校組織の理解
第2週 学習内容	教員は学校組織の一員であることを理解するとともに教員のサービスの在り方について、法令や事例等に基づいて理解する。またそれらの観点から求められる資質や力量について考察する
第3週 テーマ	学校現場を知る(課題・問題点)
第3週 学習内容	豊富な学校現場の事例を基に、現実の教員を取り巻くさまざまな課題の意味を考察しながら、これからの教員の望ましいありかたについて追及する。
第4週 テーマ	学級活動への参加
第4週 学習内容	学級活動・ホームルーム活動の内容と課題、またその指導方法を理解する。
第5週 テーマ	課外活動への参加
第5週 学習内容	課外活動は正規の教育課程のほかに実施される教育活動のことであり、さまざまな行事やクラブ活動を支援する教師としての役割を理解し、その問題点を認識する。
第6週 テーマ	授業への取り組みⅠ
第6週 学習内容	・授業観察の意義と方法について。 ・ICTや先端技術の効果的な活用により、新学習指導要領の着実な実施・個別に最適な学びや支援方法について。
第7週 テーマ	授業への取り組みⅡ
第7週 学習内容	教材研究の方法について。
第8週 テーマ	授業への取り組みⅢ
第8週 学習内容	学習指導案の作成方法について
第9週 テーマ	授業への取り組みⅣ
第9週 学習内容	ICTを活用した授業の進め方

容	
第10週 テーマ	冬季研修会の準備
第10週 学習内容	模擬授業の学習指導案とICTを活用した資料の作成。
第11週 テーマ	教育模擬演習Ⅰ(黒板とICT活用)
第11週 学習内容	模擬授業を行う。ICTと黒板を効果的に活用し、スムーズに授業を進めるようにする。
第12週 テーマ	教育模擬演習Ⅱ (ICT活用)
第12週 学習内容	模擬授業を行う。ICT活用の効果について認識する。
第13週 テーマ	教育模擬演習Ⅲ(授業の展開)
第13週 学習内容	模擬授業を行う。授業の起承転結を考慮しながら、時間内での授業展開を意識する授業ができるようになることを目指す。
第14週 テーマ	講義のまとめ
第14週 学習内容	教育実習期間の過ごし方・姿勢・マナー等について。
備考	
備考	

授業コード	3910410001		
科目授業名 [付記情報]	教育心理学	単位数	2
開講学期	2022年度 春学期	授業区分	週間授業
曜日	月曜	曜日	月曜4限
教員氏名(カナ)	大島 研介 (オオシマ ケンスケ)		

教員の実務経験有無	無	実務経験	
授業の目的と概要	<p>[目的] 教育と関連する心理学の基礎的な知見を学び、知見に基づいた考え方を身につける。また、教育心理学における知見に基づいて、教育における工夫や児童・生徒へのアプローチの仕方を考案できるようになる。</p> <p>[概要] 講義の前半は対面での講義、後半はオンデマンド講義を行う。前半の対面講義では、毎回のテーマにそった議題に関して、グループで話し合い、異なる視点の意見を共有するグループワークを行う。後半のオンデマンド講義では、講義動画を閲覧し、確認のためのオンデマンド課題に取り組むことで、知識の定着を行う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学の理論に基づいて、発達と学習について説明することができる。</li> <li>教育における課題に関して心理学の知見に基づいた考えを述べることができる。</li> </ul>		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講義は教職履修者のみが受講可能です。</li> <li>出席に関して：毎回、出席すること。特別な事情等で欠席する場合には、事前に報告する。受講者の理解や興味に応じて、内容を変更することがある。</li> </ul>		
ノートPCの利用	資料の理解や講義への参加のため、PCでの参加を推奨する。		
教科書・教材	google calssroomにて、資料を配布する。		
参考文献	特になし		

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応			
4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる			
3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる			
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる			
1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない			
知識を取り込む力	3	問題発見・解決力	3
コミュニケーション力	3	コミュニケーション力	3
社会貢献力	2	コラボレーション力	2
		専門的知識・技能の活用力	4

成績評価方法	期末試験：50% オンデマンド課題：40% 授業外学習：10%
--------	---------------------------------------

ループリック
ループリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用してください。

	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点	評価基準			
1 教育心理学の基礎的知見を身につけている。	1 — 1	1 — 2	1 — 3	1 — 4
2 教育心理学の知見に基づいた考えを述べられる。	2 — 1	2 — 2	2 — 3	2 — 4
3	3 — 1	3 — 2	3 — 3	3 — 4
4	4 —	4 —	4 —	4 —

	1	2	3	4
5	5 — 1	5 — 2	5 — 3	5 — 4
6	6 — 1	6 — 2	6 — 3	6 — 4

試験・レポート等に対するフィードバック	課題に関して、コメントや改善点の提案などのフィードバックを行う。
---------------------	----------------------------------

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）			
事前学習	必須ではないが事前に配布される資料に目を通しておく。	時間	10分
事後学習	授業内で提示されたキーワードに関して、専門書を調べ、まとめる。まとめた内容を提出する授業外学習の評価がある。	時間	30分

授業計画	
第1週 テーマ	オリエンテーション
第1週 学習内容	教育と関連する心理学に関する紹介と心理学の基本的な学問のあり方を学ぶ
第2週 テーマ	発達過程の理解1
第2週 学習内容	人の発達の特徴と人の定型発達を理解する上で重要な発達理論を学ぶ
第3週 テーマ	発達過程の理解2
第3週 学習内容	幼児期までの発達の特徴、特に運動・言語・認知・社会発達について学ぶ。
第4週 テーマ	発達過程の理解3
第4週 学習内容	児童期までの発達の特徴、特に運動・言語・認知・社会発達について学ぶ。
第5週 テーマ	発達過程の理解4
第5週 学習内容	青年期の発達の特徴、特に認知発達と社会発達に関して学ぶ。
第6週 テーマ	発達過程の理解5
第6週 学習内容	人の特性は、遺伝と環境の相互作用により形作られる。遺伝や環境の要因が発達に与える影響に関する最新の知見を学ぶ。
第7週 テーマ	学習過程の理解1
第7週 学習内容	安定した学習のための重要な認知機能として、記憶と注意を取り上げる。記憶と注意の種類と特徴を学び、学習における役割について学ぶ。
第8週 テーマ	学習過程の理解2
第8週 学習内容	主体的学習を促すには、個々の児童・生徒の動機付けへのアプローチが重要である。ここでは、動機付けの種類と機能を学び、介入する手法に関して学ぶ。
第9週 テーマ	学習過程の理解3
第9週 学習内容	主体的学習が生じる過程の一つとして、モデリングがある。ここでは、観察学習や模倣学習に関して学んだ上で、学級という集団におけるモデリングの発達と学習における活用に関して学ぶ。
第10週 テーマ	学習過程の理解4
第10週 学習内容	行動分析学に基づいた学習理論、及び教授方法に関して、学ぶ。特に、強化と罰の効果を中心に学ぶ。
第11週 テーマ	学習過程の理解5
第11週 学習内容	認知心理学に基づいた学習理論、及び教授方法に関して、学ぶ。特に、知識の蓄積としての意味記憶の特徴を中心に学習を理解する。
第12週 テーマ	学習過程の理解6
第12週 学習内容	共生社会に向け、多様な児童・生徒に対する指導のあり方を知ることが重要である。ここでは、様々な障害の特徴と困難さを理解し、評価・支援を含む指導のあり方について、学ぶ。

第13週 テーマ	学習過程の理解7
第13週 学習内容	教育現場において、教師のふるまいが児童・生徒に与える影響は大きい。ここでは、教育心理学の知見に基づき、教師のふるまいのあり方と児童・生徒に対する介入方法に関して学ぶ。
第14週 テーマ	講義の振り返りとまとめ
第14週 学習内容	期末試験を実施する。また、これまでの講義を振りかえり、理解を深める。
備考	
備考	

授業コード	3911320001				
科目授業名 [付記情報]	教育相談			単位数	2
開講学期	2022年度 秋学期	授業区分	週間授業	曜日時限	土曜1限
教員氏名(カナ)	松崎 くみ子 (マツザキ クミコ)				
教員の実務経験 有無	有	実務経験	公立中学校スクールカウンセラーとして6年間勤務。 実務経験で得た実践的な内容を交えて講義します。		
授業の目的と概要	教育相談の意義、背景となる考え方を理解し、学校現場で苦戦している児童生徒、保護者、教師のニーズに応じた支援や、予防的支援の実際を理解することを目的とします。 授業は、対面またはzoomを用いた遠隔授業において、講義を中心に実施します。教育相談活動に必要なコミュニケーションやカウンセリングスキルを高めるワークを取り入れて進めます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の意義、教育相談と生徒指導の関係、教育相談の目的を説明できる</li> <li>・教育相談における心理教育的援助サービスについて説明できる。</li> <li>・教育相談におけるアセスメントと援助サービスを説明できる</li> <li>・教育相談におけるチーム援助「チーム学校」について説明できる。</li> <li>・子どもの発達段階と発達促進的働きかけについて説明できる。</li> <li>・児童生徒の発達特性について説明できる。</li> <li>・児童生徒の身体的、精神的課題とその対応について説明できる。</li> <li>・様々な知見を活用して事例検討し具体的な対応を組み立てることができる。</li> <li>・基本的なコミュニケーションスキルを用いて相談場面に活用することができる。</li> </ul>				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・google classroom, zoomなどを利用して授業を運営する場合があります。</li> <li>・毎回必ず、授業開始時に出席をとります。</li> </ul>				
ノートPCの利用	Wi-Fi環境、遠隔授業の実施に支障のある場合は、申し出てください。				
教科書・教材	山口豊一・松崎くみ子著『学校心理学にもとづく教育相談―「チーム学校」の実践を目指して』（金子書房）ISBN978-4-7608-2422-9 1800円				
参考文献					

## ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応

4 : 当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる					
3 : 当該資質・能力を育成するのにあてはまる					
2 : 当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる					
1 : 当該資質・能力を育成するのにあてはまらない					
知識を取り込む力	4	問題発見・解決力	3	コミュニケーション力	3
社会貢献力	2	コラボレーション力	3	専門的知識・技能の活用力	3

成績評価方法	まとめのテスト50%、レポート 30%、リアクションペーパー 20% 遅刻は2回で欠席1回とみなします。 原則9回以上出席のない場合は、試験を受けることができません。
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------

## ルーブリック

ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用してください。					
	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要	
評価観点	評価基準				
1 知識・理解	1 教育相談に関して深く理解し、それらを正確に説明できる。	1 教育相談に関して、ほぼ理解し、それらをだいたい正確に説明できる。	1 教育相談に関して不正確な部分を含みながら理解し、説明する。	1 教育相談に関して全く理解できず、説明できない。	
2 問題解決力	2 提示された学校現場の事例を正確に分析し、問題解決の方法を的確に説明できる。	2 提示された学校現場の事例をほぼ正確に分析し、問題解決の方法をある程度説明できる。	2 提示された学校現場の事例を不正確な部分を含みながら分析し、問題解決の方法を説明する。	2 提示された学校現場の事例を全く分析できず、問題解決の方法も説明できない。	
3 コミュニケーション	3 コミュニケーション	3 コミュニケーション	3 コミュニケーション	3 コミュニケーション	

	ンカ	1	やカウンセリングの ロールプレイで、的 確に対応できる。	2	やカウンセリングの ロールプレイで、あ る程度の確に対応で きる。	3	やカウンセリングの ロールプレイで、不 十分ではあるが、対 応できる。	4	やカウンセリングの ロールプレイで、全 く対応できない。
4		4 — 1		4 — 2		4 — 3		4 — 4	
5		5 — 1		5 — 2		5 — 3		5 — 4	
6		6 — 1		6 — 2		6 — 3		6 — 4	

試験・レポート 等に対するフィ ードバック	
-----------------------------	--

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）			
事前学習	・授業の前に大まかな 内容について予習しておく。	時間	1.5時間
事後学習	・授業後に、それぞれの内容を正確に説明できるように復習し、テストの準備をしておくこと。	時間	2.5時間

授業計画
------

第1週 テーマ	オリエンテーション
第1週 学習内容	授業の内容と方法についてのオリエンテーション
第2週 テーマ	・「教育相談」の意義と定義 ・「教育相談」における3段階の心理教育的援助サービス
第2週 学習内容	・「教育相談」と「生徒指導」の関係、「生徒指導」の目的と課題 などについて整理する。 ・「教育相談」における1次的援助サービス、2次的援助サービス、3次的援助サービスの3段階の心理教育的援助サービスについて整理する。
第3週 テーマ	「教育相談」におけるアセスメントと援助サービス
第3週 学習内容	「教育相談」における、学習面、心理・社会面、進路面、健康面の4側面からのアセスメントと、そのアセスメントに基づく支援の概要を整理する。
第4週 テーマ	「教育相談」におけるチーム援助
第4週 学習内容	「教育相談」における4種類のヘルパー（専門的ヘルパー・複合的ヘルパー・役割的ヘルパー・ボランティア的ヘルパー）の考え方を整理する。
第5週 テーマ	「チーム学校」による対応（1） 教育相談の体制
第5週 学習内容	「チーム学校」の考え方と「教育相談」の組織体制について整理する。
第6週 テーマ	「チーム学校」による対応（2） チーム援助の実際
第6週 学習内容	チームの構成員として、学校内の学級担任、生徒指導主事、教育相談主事、養護教諭、スクールカウンセラーなど 学校外の相談機関、医療機関、行政などが考えられる。このような構成員が実際どのように機能していくのか その実際について整理する。
第7週 テーマ	子どもの発達を理解する（1）
第7週 学習内容	「教育相談」を適切に進める上で、児童生徒の発達面からの理解が有用である。主に乳幼児期・児童期について整理する。
第8週 テーマ	子どもの発達を理解する（2）
第8週 学習内容	「教育相談」を適切に進める上で、児童生徒の発達面からの理解が有用である。主に思春期・青年期について整理する。
第9週 テーマ	児童生徒の発達特性の理解と対応（1）
第9週 学習内容	児童生徒の苦戦につながる要因の一つとして発達特性がある。「教育相談」において、その特性の理解と対応の知識が有用である。主に自閉スペクトラム症、ADHDについて取り上げる。
第10週 テーマ	児童生徒の発達特性の理解と対応（2）
第10週 学習内容	児童生徒の苦戦につながる要因の一つとして発達特性がある。「教育相談」において、その特性の理解

容	と対応の知識が有用である。主に限局性学習症について取り上げる。
第11週 テーマ	児童生徒の小児科・精神科的な課題への理解と対応 (1)
第11週 学習内容	子どもの困難は、身体的な場合も、心理・社会的な場合も身体症状や、精神科的な症状として現れることがある。主に、身体症状とその対応について整理する。
第12週 テーマ	児童生徒の小児科・精神科的な課題への理解と対応 (2)
第12週 学習内容	子どもの困難は、身体的な場合も、心理・社会的な場合も身体症状や、精神科的な症状として現れることがある。主に、精神科的な症状とその対応について整理する。
第13週 テーマ	事例検討
第13週 学習内容	子どもたちの抱える困難について事例を通して理解を深める。
第14週 テーマ	講義のまとめ
第14週 学習内容	現代日本の学校教育における教育相談の意義をまとめとして整理した後に、授業に対する理解度を測定する試験を実施する。
備考	
備考	

授業コード	3911120001				
科目授業名 [付記情報]	教育方法論(ICT活用含む)/教育方法論		単位数	2	
開講学期	2022年度 秋学期	授業区分	週間授業	曜日時限	月曜4限
教員氏名(カナ)	鈴木 かおり (スズキ カオリ)				
教員の実務経験有無	有	実務経験	社会人教育及び大学教育に長年従事してきた実務経験を元に事例研究を行い、実践を交えて講義します。		
授業の目的と概要	教育方法論とは、学習者が学習内容を効果的に習得するための教育指導の方法論や技術です。歴史的な教育方法から現在のICT（情報通信技術）を活用した学習方法を理解することにより、効果的な教育方法のあり方を学びます。また、教育メディアの活用意義や方法を学ぶことにより、学習目標の明確化、効果的な教材作成のポイント、教材提示の方法、持続的な動機付け方法、学習意欲の喚起など、実践的な教授方法への応用について理解を深めます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果を高めるための学習指導のあり方を説明できる。</li> <li>・わかりやすく伝えるための知識と技術を適用できる。</li> <li>・ICT（情報通信技術）の効果的な活用方法を理解し、学習指導に応用できる。</li> <li>・学習者に考える力、学ぶ意欲を与え、持続させるにはどのような指導方法が良いかを自ら考え適用できる。</li> </ul>				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義は、教職履修者のみが受講可能である。</li> <li>・授業中の携帯電話の使用は禁止する（ベルオフにし、バッグの中にしまう）。</li> <li>・授業中の私語は禁止する。</li> <li>・レポートの提出は、授業内に提出すること。どうしても間に合わない場合は、次週の授業開始前までに提出すること。</li> </ul>				
ノートPCの利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは全てWord,Excel,PowerPointで作成し、提出する。よって、毎回の授業に持参すること。</li> </ul>				
教科書・教材	・適宜、資料を配付する				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育の方法と技術」 稲垣 忠 編著</li> <li>・「中学校学習指導要領（最新版）」文部科学省</li> <li>・「高等学校学習指導要領（最新版）」文部科学省</li> <li>・その他授業中に適宜参考資料、書籍を紹介する。</li> </ul>				
ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応					
4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる					
3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる					
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる					
1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない					
知識を取り込む力	4	問題発見・解決力	3	コミュニケーション力	3
社会貢献力	2	コラボレーション力	3	専門的知識・技能の活用力	4
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位の認定には、2/3以上の出席が必要である。</li> <li>・30分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・遅刻3回で欠席1回とみなす。</li> <li>・授業参画度（取組み姿勢、意欲、グループ演習・発表時の発言等）10%</li> <li>・小レポート評価30%</li> <li>・「教材研究と授業資料作成」の演習課題20%</li> <li>・期末テスト40%</li> </ul>				
ルーブリック					
ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用してください。					
	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要	
評価観点	評価基準				
1 小レポート	1 授業内容を深く理解し、さらに自ら調査・研究した内容を	1 講義内容と、それに関する自らの考えについて、適切に説明することができる。	1 自らの考えを適切に記述できているが、講義内容との関連性が不明瞭である。	1 記述内容が全体的に不明瞭である。	

		含めて説明することができる。					
2	教材研究と授業資料の作成	2 — 1	2 — 2	授業内容を理解し、目標レベルの指導案作成、授業資料の作成ができる。	2 — 3	授業内容はある程度理解できているが、わかりやすい授業にするための工夫が必要である。	2 — 4
3		3 — 1	3 — 2		3 — 3		3 — 4
4		4 — 1	4 — 2		4 — 3		4 — 4
5		5 — 1	5 — 2		5 — 3		5 — 4
6		6 — 1	6 — 2		6 — 3		6 — 4

試験・レポート等に対するフィードバック	レポート,演習課題について、解説を行う。
---------------------	----------------------

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）			
事前学習	次回の講義テーマについて予習を行い、指定されたテーマについて調べる。	時間	45分
事後学習	講義内容について復習し、与えられた演習テーマのレポートを完成させる。	時間	45分

授業計画	
第1週 テーマ	オリエンテーション
第1週 学習内容	わかりやすい授業とはどのような授業なのかを考える。 ICTを活用した情報提示の方法から考察し、わかりやすい授業のあり方を学ぶ。
第2週 テーマ	人間の認知活動と記憶システム
第2週 学習内容	認知構造を理解し、記憶にとどめるためのポイントを学ぶ。 その上で、これを教育方法論にどのように活かすのかを学ぶ。
第3週 テーマ	代表的な教授・学習理論の体系と概要
第3週 学習内容	教授・学習理論の歴史と代表的な教育方法について学ぶ。 時代背景や社会情勢の変化により、教育方法論がどのように変化してきたかを学ぶ。
第4週 テーマ	系統主義の流れ
第4週 学習内容	段階的教授法の四段階教授法、五段階教授法について学ぶ。
第5週 テーマ	経験主義の流れ
第5週 学習内容	直観教授、問題解決学習、プロジェクト・メソッド等について学ぶ
第6週 テーマ	教育思想の現代化
第6週 学習内容	発見学習、完全習得学習、プログラム学習、有意義受容学習等について学ぶ
第7週 テーマ	日本における教育改革と教育方法の歴史
第7週 学習内容	近代日本の教育について学ぶ。 日本教育史、教育改革や教育方法の変遷を学ぶ。
第8週 テーマ	ICTを活用した指導と技術
第8週 学習内容	ICTを理解し、教育現場におけるICTの活用事例を学ぶ。 AIを取り入れた授業運営のメリットとデメリットについて学ぶ。 遠隔・オンライン教育の意義やオンライン教育に関連するシステムの使用方法について学ぶ。
第9週 テーマ	教材作成における情報収集と情報活用技術
第9週 学習内容	ICTを活用した情報収集のための情報検索技術と情報整理及び活用方法について学ぶ。

容	教材作成における著作権と個人情報保護の重要性を学ぶ。 スタディ・ログの活用による指導と評価について理解し、情報セキュリティの大切さについて学ぶ。
第10週 テーマ	ICT活用実践① 授業の質を高めるICT活用方法
第10週 学習内容	デジタルコンテンツを活用し、わかりやすい教授方法や授業展開について学ぶ。 統合型校務支援システムなど情報通信技術を活用した効率的な校務について学ぶ。
第11週 テーマ	学習指導案の作成方法
第11週 学習内容	インストラクショナルデザインについて学ぶ。 ガニエの9教授事象について学び、これらを学習指導案作成に活かす。
第12週 テーマ	ICT活用実践② 教材作成にICT技術を活かす
第12週 学習内容	ICTを活用したわかりやすい授業資料作成のポイントを学び、PCによる演習を行う。 効果的なビジュアル表現、色の効果、レイアウトについて学ぶ。 問題作成のポイントや文章表現について学ぶ。
第13週 テーマ	総合演習①指導案の作成、教材研究と授業資料の作成
第13週 学習内容	ICTを活用した模擬授業教材の作成と相互評価。 授業テーマの学習目標の設定、指導案の作成、教材研究、授業資料の作成を行う。 相互評価を行なう。
第14週 テーマ	総合演習②模擬授業の実施と相互評価
第14週 学習内容	ICTを活用した模擬授業の実施。 作成した学習指導案、授業資料を基に模擬授業を行なう。 相互評価を行なう。
備考	
備考	

授業コード	3910110001		
科目授業名 [付記情報]	教師論	単位数	2
開講学期	2022年度 秋学期	授業区分	週間授業
曜日時限	金曜2限		
教員氏名(カナ)	東風 安生 (コチ ヤスオ)		
教員の実務経験 有無	有	実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元公立小学校教諭</li> <li>・元私立小学校教諭、私立小学校教頭</li> <li>・元学校法人早稲田実業学校評議員</li> </ul> 以上の実務経験を活かして、学校現場における教師の現像を多方面（学級担任の立場、管理職の立場、経営者の立場）から紹介し、その課題と解決方法について学生と共に考えていきます。
授業の目的と概要	<p>&lt;目的&gt; 教職の意義、教員の役割、職務内容等に関する理解を深める。 その結果として、教員を志望する者が教職に対する自らの適性を考察する。 そして自信をもって教職の道に進む勇気と意欲を高める。</p> <p>&lt;概要&gt; 学校現場で起きるケーススタディが中心となる。これについて、それぞれがまず自分自身の中学校時代の経験をふりかえり、意見交換を行う。全体で共有したあと、教師側から法令や学習指導要領、新聞記事や文部科学省の答申などを示し、学校の現実を講義で説明する。これを受けてあらためて考えたことや感じたことをディスカッションし、最後に本時をふりかえる。具体的には、以下の5つの柱をテーマにして学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.社会の変化の中で求められる教師の資質能力。</li> <li>2.教師に求められる社会性・人間性。</li> <li>3.中学生・高校生を育てる教育経営・実践的指導力。</li> <li>4.中学校・高等学校、家庭、地域社会との連携。</li> <li>5.教員としての職務内容および服務規程等。</li> </ol>		
到達目標	授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職の意義や教員の役割、教員の服務や職務内容についての知識を身に付けることができる。</li> <li>・教職に対する自己の適性を自ら多面的に省察することができるようになる。</li> <li>・教師になるに向けて、自分のよさや課題を整理できる。</li> <li>・最終的に積極的に高等学校という教育の現場に関わっていかうとする態度を身に付けることができる。</li> </ul>		
履修上の注意	課題で作成した成果物は、すべてGoogle Classroomから提出すること。 教職課程を履修する第一歩として大切な科目です。 3年次に教育実習に関する科目を履修することになる。4年生では教育実習に向かうことになる。こうした履修の流れを考えて先を見通した中での現時点で何を学んでいるかを意識することが大切である。 【注意】この科目は、教職課程履修をする学生のみが履修可能である。		
ノートPCの利用	毎回、ノートPCを持参すること。 PCは、フル充電をしておくこと。		
教科書・教材	高橋浩・金田健司編著『教育の本質と教師の学び』（学文社）2019年 2400円		
参考文献	必要に応じて授業内で紹介する。		
ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応			
4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる			
3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる			
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる			
1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない			
知識を取り込む力	3	問題発見・解決力	4
社会貢献力	2	コラボレーション力	2
		コミュニケーション力	4
		専門的知識・技能の活用力	3
成績評価方法	定期試験...70% 授業に対する取り組み...30% ※授業ごとに自分自身のふりかえりを記述する。これを担当教員がルーブリックを基準に評価をする。 「S」4点 「A」3点 「B」2点 「C」1点 14回の授業のうち、ふりかえりコメントの評価がよいものから10回分を自分自身の授業への取り組みの評価として、カウントする。 (例) A君 ①A ②B ③A ④S ⑤欠 ⑥A ⑦A ⑧C ⑨A ⑩A ⑪B ⑫C ⑬A ⑭A A君の授業に対する取り組み ? 8回分×3点「A評価」 2回分×2点「B評価」 合計28点		

ループリック					
ループリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの					
評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用して					
ください。					
		目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点		評価基準			
1	知識・技能 (25%)	1 学校現場で教師に求められる資質・能力に関する「知」の部分について、完全に理解し、指導に当たった技能に習熟できている。	1 学校現場で教師に求められる資質・能力に関する「知」の部分について理解し、指導に当たった技能が身についている。	1 学校現場で教師に求められる資質・能力に関する「知」の部分について、部分的に理解し、指導のための技能は部分的に身についている。	1 学校現場で教師に求められる資質・能力に関する「知」の部分について理解せず、指導に当たった技能は身につけていない。
2	主体性 (30%)	2 教職の意義を十分に理解した上で、教員として求められる資質・能力をたかめようとする主体性を極めて強くもっている。	2 教職の意義を十分に理解した上で、教員として求められる資質・能力をたかめようとする主体性をもっている。	2 教職の意義を十分に理解した上で、教員として求められる資質・能力をたかめようとする主体性を部分的にもっている。	2 教職の意義を十分に理解した上で、教員として求められる資質・能力をたかめようとする主体性が不十分である。
3	表現力 (45%)	3 自らの教育観・教師観を十分説得力のある形で他者に伝えることができる。	3 自らの教育観・教師観をある程度、説得力のある形で他者に伝えることができる。	3 自らの教育観・教師観を他者に伝えることができる。	3 自らの教育観・教師観を他者に伝えることができない。
4		4	4	4	4
5		5	5	5	5
6		6	6	6	6

試験・レポート等に対するフィードバック	<p>毎回提出するミニットカードには4段階 (S?C)の評価をつけて、次回の最初に返却する。</p> <p>毎回の授業の到達目標についてどの程度達成できたか確認ができる。</p> <p>秀でていると判断できる考え方や意見については、次回以降の授業の中で紹介してクラス全体で共有する。Google Classroomにまとめた14回分の自分自身の講義をとおしてのリフレクションを読み直して、「教師論」全体についてのふりかえりを行う必要がある。このふりかえりを文章化することで、教職課程科目の履修を継続していくかどうかの自分自身の判断基準となる。</p>
---------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業時間外の学習内容 (※学習時間は講義1回あたりに必要な時間)			
事前学習	事前に、Google Classroomに示した、学校現場における事例について、自分はどのように考えるかをまとめて、文章化しておく。	時間	1.5時間
事後学習	授業で紹介した教育法規や学習指導要領および中央教育審議会等の答申などについて、実際にインターネット等で確認して、必要な部分をコピーして自分なりの教職辞典を作成するための参考とする。	時間	2.5時間

授業計画	
第1週 テーマ	はじめに「なぜ教師になりたいの？」(教師とは何か)
第1週 学習内容	14回の学習の方法を理解する。ポートフォリオに書き込みながら最終的に自分自身の適性を省察できるようにする方法を理解する。
第2週 テーマ	教職の意義①「もし、学校がなかったら？」(教えるということ)
第2週 学習内容	(問題解決型学習) 第1回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「教えるということ」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて、教師自身が実践した学校での授業の様子を紹介する。(ビデオや学級通信など)
第3週 テーマ	教職の意義②「教え方の上手な先生と人柄のよい先生、どちらがよいか？」(すぐれた教師)

第3週 学習内容	(問題解決型学習) 第2回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「すぐれた教師」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師自身が実践した学校での授業の様子を紹介する。(ビデオや学級通信など)
第4週 テーマ	教員の役割①「すべての生徒に高い学力を!そんなことできるの?」(教科指導)
第4週 学習内容	(問題解決型学習) 第3回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「教科指導」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師自身が実践した学校での授業の様子を紹介する。(ビデオや学級通信など)
第5週 テーマ	教員の役割②「『誰にも言わないでね。私の秘密、先生だけに話すから』あなたならどうする?」(生徒指導)
第5週 学習内容	(問題解決型学習) 第4回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「生徒指導」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師自身が実践した学校での指導の様子を紹介する。(ビデオや学級通信など)
第6週 テーマ	教員の役割③「わたしの学級が崩壊!あなたならどうする?」(学級経営)
第6週 学習内容	(問題解決型学習) 第5回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「生徒指導」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師自身が実践した学校での指導の様子を紹介する。(ビデオや学級通信など)
第7週 テーマ	教員の役割④「保護者からの突然の苦情!あなたならどうする?」(保護者との連携)
第7週 学習内容	(問題解決型学習) 第6回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「保護者との連携」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師自身が実践した学校での活動の様子を紹介する。(ビデオや学級通信など)
第8週 テーマ	教員の役割⑤「校長から盆踊りの見回りの依頼!あなたならどうする?」(地域との連携)
第8週 学習内容	(問題解決型学習) 第7回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「地域との連携」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師自身が実践した学校での活動の様子を紹介する。(ビデオや学級通信など)
第9週 テーマ	教員の役割⑥「ALTとチームティーチング、あなたの英語力は大丈夫?」(教員の種類と職階)
第9週 学習内容	(問題解決型学習) 第8回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「ALTとチームティーチング」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師のオンザジョブトレーニングの研修ビデオを紹介する。
第10週 テーマ	教員の職務内容①「夏休みは何日休めるのか?」(教員の資質能力の形成と研修)
第10週 学習内容	(問題解決型学習) 第9回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「夏休みは何日休めるのか」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師のオンザジョブトレーニングの研修ビデオを紹介する。
第11週 テーマ	教員の職務内容②「教師はブログを書いてよいのか?」(教員の服務規定と身分保障)
第11週 学習内容	(問題解決型学習) 第10回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「教師はブログを書いてよいのか」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師の服務規程に関する研修ビデオを紹介する。
第12週 テーマ	教員生活の実際①「退職金が減額、あなたならどうする?」(教職をめぐる諸問題、事務職との連携)
第12週 学習内容	(問題解決型学習) 第11回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「退職金が減額、あなたならどうする」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師の服務規程に関する研修ビデオを紹介する。
第13週 テーマ	教員生活の実際②「教員はどのように採用されるのか?」(教員採用の概要)
第13週 学習内容	(問題解決型学習) 第12回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「教員はどのように採用されるのか」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて、教員委員会等の採用試験の情報を提供する。
第14週 テーマ	教員生活の実際③「あなたの20年後は?」(教職と適性)
第14週 学習内容	(問題解決型学習) 第13回に予告した今回のテーマについて、グループで討議したことを全体に報告する。焦点をしばって全体で討議して、「あなたの学級をデザインしよう」に対する自分自身の疑問の答えを見つけていく。また、必要に応じて教師の学級経営に関する研修ビデオを紹介する。
備考	
備考	

授業コード	3911820001				
科目授業名 [付記情報]	教職実践演習			単位数	2
開講学期	2022年度 秋学期	授業区分	週間授業	曜日時限	月曜5限
教員氏名(カナ)	東風 安生 (コチ ヤスオ)				

教員の実務経験 有無	有	実務経験	【東風安生】・元公立小学校教諭 ・元私立小学校教諭、私立小学校教頭 ・元学校法人早稲田実業学校評議員 以上の実務経験を活かして、学校現場における教師の現像を多方面（学級担任の立場、管理職の立場、経営者の立場）から紹介し、その課題と解決方法について学生と共に考えていきます。		
授業の目的と概要	教員として求められる資質・能力を全体として修得するため、実際に経験した教育実習などを題材にしたグループ討論やワークショップ等の実施により、教員の役割・子ども理解・授業方法などを多面的に考察する。また、教員や教育行政に関わる方々の講話を通して、責任感・社会性・対人関係能力・生徒理解・指導力などを学校現場の視点から理解することで、教員の責務を確認する。				
到達目標	1 教職課程の最終段階として、教員として必要な資質・能力が全体として身に付けられる。 2 教員として求められる「使命感や責任感、教育的愛情」「社会性や対人関係能力」「生徒理解や学級経営等」「教科の指導力」などの修得できる。 3 ICTを活用して、学習の効果的な指導を推進することができる。				
履修上の注意	教職課程のすべての履修科目や教育実習等と深く関連する科目として位置付けられる。 教職生活へ向けた教職課程の総まとめとなる。教育実習を中心に教職課程全体を振り返ることで、学級経営・科目指導・教育問題への対応などに対する自分の意見を発表できるよう心掛けて欲しい。 夏および秋に「教職研修会」を実施する。（2021年度は9月と1月にオンラインで実施） この研修会に必ず出席すること。ここで教育実習報告や模擬授業での研究協議会の司会進行を行う。				
ノートPCの利用	全員必ず持参すること。				
教科書・教材	『教職課程履修者カルテ』および『教育実習記録』を用意すること。 授業資料は、Google Classroomで公開する。				
参考文献	必要に応じて、授業内で紹介する。				

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応					
4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる					
3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる					
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる					
1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない					
知識を取り込む力	2	問題発見・解決力	4	コミュニケーション力	4
社会貢献力	3	コラボレーション力	3	専門的知識・技能の活用能力	4

成績評価方法	教員として必要な資質・能力が形成されていることを前提として 1. 授業への積極的な参加を評価する。(授業参加度：30%) 2. 「学級経営」「学習指導」「特別活動」「校務分掌」「授業準備」などの教職実践演習課題の取組を評価する。(課題への取組：40%) 3. グループ討論やワークショップへの取組などを評価する。(課題発表：30%)				
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--

ルーブリック						
ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの						
評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用して						
ください。						
	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要		
評価観点	評価基準					
1 知識・技能	1 — 1	学校現場で求められる知識や技能について、完全に理解し身に付けている。	1 — 2	学校現場で求められる知識や技能について、ほとんど理解し、おおよそ身に付けている。	1 — 3	学校現場で求められる知識を部分的に理解し、技能を部分的に身に付けている。
2 思考力・判断力	2	ICTを活用した話合	2	ICTを活用した話合	2	ICTを活用した話合

		1	い活動で、本時のテーマとなる課題について十分に考察を加え、問題の解決方法を的確に判断して示すことができる。	2	い活動で、本時のテーマとなる課題についておおよそ考察を加え、問題の解決方法をほぼ判断して示すことができる。	3	い活動で、本時のテーマとなる課題について部分的に考察を加え、問題の解決方法を一部判断して示すことができる。	4	い活動で、本時のテーマとなる課題についてあまり考察を加えられず、問題の解決方法を判断することができない。
3	表現力	3	問題の核心について十分に説得力のあるスピーチをICTを活用しながら行うことができる。	3	問題の核心についておおよそ説得力のあるスピーチをICTを活用しながら行うことができる。	3	問題の核心について部分的には説得力のあるスピーチをICTを活用しながら行うことができる。	3	問題の核心についてICTを活用したスピーチを行うことができない。
4		4		4		4		4	
5		5		5		5		5	
6		6		6		6		6	

試験・レポート等に対するフィードバック	学年末に「教職履修者カルテ」を返却する。これを大学における教職課程で学んだ集大成として、実際の学校現場で教師として活用できるようにしてほしい。 学びを継続することができる者が教師であるから、「教職実践演習」の学びや『教育実習記録』のコメントをふりかえり、自分自身の課題をあらためてつかんで、教師としての道を進んでほしい。
---------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）			
事前学習	・教育実習での体験をふりかえり、教育実習を通して学んだ事項を「教職ファイル」にまとめておく。 ・授業時間外で次週の授業で実施されるようなICTを活用した話合いのテーマについて準備をしておく。	時間	2時間
事後学習	・授業で学んだ事項を「教職履修者カルテ」にその都度記録しておく。 ・ファイルに付箋をつけて、自分が気付いたことや感じたこと、学んだことなどを「教職ファイル」の該当ページにつけておく。必要に応じてそのページを繰って、ふりかえる。	時間	2時間

授業計画	
第1週 テーマ	オリエンテーション 【担当:大島】
第1週 学習内容	「教職実践演習」の位置づけや意義の説明。履修カルテを基にした力量形成状況の確認を行う。また、将来教員になる上で何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能を補うことで定着を図る。
第2週 テーマ	教育実習のふりかえり① 【担当:東風】
第2週 学習内容	教育実習記録をもとに、自分自身の教育実習をふりかえる。 DVD教材を視聴しながら、自分自身の実習と比較する。十分できた点と、これからの課題の点を明確にする。
第3週 テーマ	教育実習のふりかえり② 【担当:東風】
第3週 学習内容	教育実習記録をもとに、自分自身の教育実習をふりかえる。 事前準備・観察実習・教壇実習・お礼等の事後活動の段階別に大切な点をまとめる。教職研修会においてプレゼンテーションができるようにする。
第4週 テーマ	教員の職務について 【担当:東風】
第4週 学習内容	教育実習で経験した教員の職務について検討する活動内容の発表、グループ討論、ワークショップによって教員の職務内容、使命感、責任感、教育的愛情について再確認する。
第5週 テーマ	学級運営について 【担当:東風】
第5週 学習内容	教育実習の経験をもとに、学級運営の在り方を検討する。学年運営案を基にした学級運営案の作成と

容	ループ討論やワークショップによって、集団の把握や集団規律の確立および保護者への対応など、学級担任としての責務や役割について学ぶ。
第6週 テーマ	学校の教育活動について 【担当:東風】
第6週 学習内容	教育実習の経験をもとに、学校の教育活動の在り方を検討する。教育活動の計画や学校の組織と運営について学ぶ。
第7週 テーマ	教育現場における教師の影響【担当：大島】
第7週 学習内容	教師は、児童・生徒にとって、影響力の大きい大人の一人である。教師のふるまいが、学級や児童・生徒に与える影響に関する心理学的知見を学び、教員としてのふるまいの在り方に関して議論を行う。
第8週 テーマ	教育現場におけるICT活用【担当：大島】
第8週 学習内容	教育におけるICT活用の重要性と効果に関して学ぶとともに、自身が取り組んだICT活用事例や工夫を共有し、ICT活用のあり方に関して議論を通じて学ぶ。
第9週 テーマ	障害の社会モデルと特別支援教育の現状 【担当:大島】
第9週 学習内容	障害者差別解消法の施行により、地域の学校に多様な児童・生徒が通うようになる。障害の社会モデルや特別支援教育の現状を学び、教育実習のふりかえりを通じて、多様な児童・生徒への指導や対応のあり方に関して議論を行う。
第10週 テーマ	多様な児童・生徒と合理的配慮のあり方 【担当：大島】
第10週 学習内容	地域の学校に通う多様な児童・生徒が力を発揮できるための、合理的配慮のあり方を議論し、高大接続を意識した指導のあり方について一貫した考え方を学ぶ。
第11週 テーマ	模擬授業の実施と討議 【担当：東風/大島】
第11週 学習内容	教育実習前の3年生の模擬授業について、自己の教育実習の体験をふまえて、良かった点・改善すべき点を議論する。 また、学校現場の先生方から講評していただく。
第12週 テーマ	高校現場での職務の実際について 【担当：東風/大島】
第12週 学習内容	学校現場の先生方から、教育現場での職務の実際を学びつつ、各自が今後の心構えを形成していく。
第13週 テーマ	教職の魅力 【担当：東風/大島】
第13週 学習内容	学校現場の先生方から、これまでの実践を通して感じ取った高校教職の魅力を語っていただき、自己の教職へのモチベーション形成に役立てる。
第14週 テーマ	総括 【担当：東風/大島】
第14週 学習内容	教員として求められる資質や能力、未来の教師像についてまとめる。
備考	
備考	

授業コード	3910630001				
科目授業名 [付記情報]	商業科教育法			単位数	4
開講学期	2022年度 春学期～秋学期	授業区分	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）	曜日時限	春学期（金曜1限）、秋学期（金曜1限）
教員氏名(カナ)	赤松 千春（アカマツ チノリ）				

教員の実務経験 有無	有	実務経験	私立高校、公立高校において商業科教員として勤務経験があります。実務経験をもとに商業科教員になるために必要な知識・指導法等について講義します。		
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業教育の歴史を踏まえ、商業教育の意義・必要性・内容を理解するとともに商業科教員としての資質を高めるために指導法を実践的に学び、知識や技術の修得を目的とする。（実践的学習として模擬授業を実施する。）</li> <li>・商業教育の現状と課題を認識し、これからの商業教育の在り方について考察する。</li> <li>・ICTを効果的に活用した指導方法を各科目ごとに分析する。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科「商業」の目標・内容を理解し、商業教育に必要な知識と教授法を修得することができる。</li> <li>・学校における教育活動において望ましい態度・責任感・規範意識などを身に付けることができる。</li> <li>・商業教育・ICT活用指導の現状と課題を認識することができる。</li> <li>・ICT機器を積極的に使用し、対面授業と遠隔授業(オンライン)の効果的な指導方法を修得することができる。</li> </ul>				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業に際しては、十分な教材研究を行い、綿密な学習指導案を作成して臨むこと。</li> <li>・2/3以上の出席がない場合は単位を取得することができません。</li> <li>・遅刻2回で欠席1回とみなします。</li> <li>・常に教育に関する情報収集に努め、時事問題を考察する習慣をつけること。</li> <li>・本講義は教職履修者のみが受講可能です。</li> </ul>				
ノートPCの利用	PCを使用する場合は事前に指示する。				
教科書・教材	Google Classroomで配布、または必要に応じてプリントを配布する。				
参考文献	文部科学省 『高等学校指導要領解説 商業編』 実教出版 笈川達夫 2001年 『商業教育の歩み 現状の課題と展望』 実教出版 産業教育振興中央会編 『月刊 産業と教育』 実教出版				

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応					
4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる					
3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる					
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる					
1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない					
知識を取り込む力	3	問題発見・解決力	3	コミュニケーション力	4
社会貢献力	3	コラボレーション力	3	専門的知識・技能の活用力	4
成績評価方法	模擬授業 50% 試験 30% 課題・授業参加度 20%				

ルーブリック					
ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用してください。					
	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要	
評価観点	評価基準				
1 模擬授業(教材研究)	1 効果的な学習方法を取り入れ、興味関心を持たせる授業展開にするために授業の内容や構成まで見通	1 興味関心を持たせる授業展開にするために授業の内容や構成まで見通した豊かな教材研究ができてい	1 学習内容の専門知識があり、授業をするために最低限必要な教材研究ができてい	1 授業を展開するための教材研究ができて	1 いない。

		した豊かな教材研究が できている。				
2	模擬授業（技術）	2 — 1 学習内容が深まる深 まる発問を柔軟にす ることができ、聴衆 の様子を観察しなが ら板書し、思考を促 すように授業を展開 している。また適切 なICT活用ができて いる。	2 — 2 聴衆の様子を観察し ながら板書し、思考 を促すように授業を 展開している。また 適切なICT活用がで きている	2 — 3 ICTを活用し、思考 を促すように授業を 展開している。	2 — 4 適切なICTを活用し た授業展開ができて いない。	
3	学習指導案の作成	3 — 1 教科の目標を深く理 解し、指導内容と留 意点を明確にした効 果的な学習指導案を 作成することができる。	3 — 2 教科の目標を理解 し、授業を実施する ための学習指導案を 作成することができる。	3 — 3 必要最低限の学習指 導案を作成すること ができる。	3 — 4 学習指導案を作成す ることができない。	
4	商業科目の知識・ 理解	4 — 1 商業の各分野全般に ついて、深い知識と 技術を習得し、ビジ ネスの意義や役割・ について理解するこ とができる。	4 — 2 商業の各分野につい て、知識と技術を習 得し、ビジネスの意 義や役割・について 理解することができる。	4 — 3 商業の各分野全般に ついて、知識と技術 を習得している。	4 — 4 商業の各分野全般に ついて、知識と技術 をほとんど習得して いない。	
5		5 — 1	5 — 2	5 — 3	5 — 4	
6		6 — 1	6 — 2	6 — 3	6 — 4	

試験・レポート 等に対するフィ ードバック	課題をチェックして授業中に総評コメントをし、改善点を伝えます。
-----------------------------	---------------------------------

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）			
事前学習	模擬授業に向けて、教材研究・指導案を作成する。	時間	2.5
事後学習	・模擬授業の振り返りを行い、授業で改善点を探る。 ・教育に関連する情報を収集し授業で発表する。	時間	1.5

授業計画	
第1週 テーマ	オリエンテーション
第1週 学習内 容	「商業科教育法」講義の目的と概要について。
第2週 テーマ	学習指導要領
第2週 学習内 容	・学習指導要領の変遷、全体構造と評価方法の考え方について。 ・ICTや先端技術の効果的な活用により、新学習指導要領の着実な 実施について
第3週 テーマ	商業教育の歴史とICT活用指導の現状と課題
第3週 学習内 容	・商業教育の歩みと今後の商業教育の動向や展望について。 ・高等学校の商業科におけるICTを活用した指導法の現状と課題 について。
第4週 テーマ	学習指導要領上の商業科目(ビジネス基礎①)
第4週 学習内 容	・学習指導要領の目標、指導内容と取り扱いを踏まえて学習内容を 理解する。 ・対面指導と遠隔・オンライン指導を使いこなす (ハイブリッド化)指導法について。
第5週 テーマ	学習指導要領上の商業科目・ビジネス基礎②)
第5週 学習内 容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。

容	
第6週 テーマ	学習指導要領上の商業科目（ビジネス基礎③）
第6週 学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第7週 テーマ	学習指導要領上の商業科目（ビジネス基礎④）
第7週 学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第8週 テーマ	ビジネス基礎の模擬授業の振り返りを行い、改善点を探る。
第8週 学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業を振り返り、授業設計・指導内容・指導方法について相互検討し、改善点を探る。</li> <li>・ビジネス基礎分野の確認テストを行う。</li> </ul>
第9週 テーマ	学習指導要領上の商業科目（ビジネス経済分野①）
第9週 学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の目標、指導内容と取り扱いを踏まえて学習内容を理解する。</li> <li>・対面指導と遠隔・オンライン指導を使いこなす（ハイブリッド化）指導法について。</li> </ul>
第10週 テーマ	学習指導要領上の商業科目（ビジネス経済分野②）
第10週 学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第11週 テーマ	学習指導要領上の商業科目（ビジネス経済分野③）
第11週 学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第12週 テーマ	学習指導要領上の商業科目（ビジネス経済分野④）
第12週 学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第13週 テーマ	ビジネス経済分野の模擬授業の振り返りを行い、改善点を探る。
第13週 学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業を振り返り、授業設計・指導内容・指導方法について相互検討し、改善点を探る。</li> <li>・ビジネス経済分野の確認テストを行う。</li> </ul>
第14週 テーマ	模擬授業の振り返りと夏季研修会に向けての準備
第14週 学習内容	模擬授業を振り返り、授業設計・指導方法について相互検討し、改善点を探る。また夏季研修会に向けて学習指導案を作成し模擬授業の準備を行う。
第15週 テーマ	夏季研修会の振り返り
第15週 学習内容	夏季研修会を振り返り、授業設計・指導方法について相互検討し、改善点を探る。
第16週 テーマ	学習指導要領上の会計分野① 指導方法・ICTの活用方法について
第16週 学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第17週 テーマ	学習指導要領上の会計分野② 効果的な授業法（板書・声）
第17週 学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第18週 テーマ	学習指導要領上の会計分野③ 効果的な授業法（机間巡視指導・検定指導）
第18週 学習内容	学習指導要領の目標、指導内容と取り扱いを踏まえて学習内容を理解する。
第19週 テーマ	学習指導要領上の会計分野④ 指導案・板書計画を作成し模擬授業を行う。
第19週 学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第20週 テーマ	会計分野の模擬授業の振り返りを行い、改善点を探る。
第20週 学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第21週 テーマ	学習指導要領上のビジネス情報分野と課題研究① 学習指導要領の目標・指導内容と留意点について。
第21週 学習内容	学習指導要領の目標、指導内容と取り扱いを踏まえて学習内容を理解する。

第22週	テーマ	学習指導要領上のビジネス情報分野と課題研究② 情報モラルとICTの活用方法について。
第22週	学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第23週	テーマ	学習指導要領上のビジネス情報分野と課題研究③
第23週	学習内容	学習指導案と板書計画をもとに模擬授業を行う。
第24週	テーマ	学習指導要領上のビジネス情報分野と課題研究④
第24週	学習内容	・模擬授業の振り返り ・授業設計・指導方法について相互検討し、改善点を探る。
第25週	テーマ	模擬授業
第25週	学習内容	教育実習を意識し、板書計画・指導案を作成して模擬授業を行う。
第26週	テーマ	模擬授業
第26週	学習内容	教育実習を意識し、板書計画・指導案を作成して模擬授業を行う。
第27週	テーマ	模擬授業
第27週	学習内容	教育実習を意識し、板書計画・指導案を作成して模擬授業を行う。
第28週	テーマ	講義のまとめ
第28週	学習内容	期末試験を行う。 研修会へ向けての準備(模擬授業の指導案と資料作成。)
備考・補足等		夏季研修会の振り返り
備考・補足等		夏季研修会を振り返り、授業設計・指導方法について相互検討し、改善点を探る。

授業コード	1560011001				
科目授業名	[付記情報]	職業指導1	単位数	2	
開講学期	2022年度 春学期	授業区分	週間授業	曜日時限	金曜5限
教員氏名(カナ)	小菅 清香 (コスゲ サヤカ)				

教員の実務経験 有無	有	実務経験	労働政策研究・研修機構（キャリア支援部門）での研究経験や、職業レディネス・テストの改訂に関わる委員経験をもとに、キャリアに関する近年の知見などを交えながら、職業指導（進路指導・キャリア教育）について学生と共に考えていきます。
---------------	---	------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業の目的と概要	本講義では、教師として職業指導（進路指導・キャリア教育）を行うために必要な基礎知識やスキルの習得を目的とする。前期は近年の雇用の現状と諸問題を概観した上で、職業指導（進路指導・キャリア教育）の位置づけ、キャリア・ガイダンスの代表的な理論と個性把握のためのアセスメントの方法を身につける。実習として、自らを被検者とした適性検査を実施する。 授業では、講義とディスカッションを組み合わせた演習形式の授業を行う。発表の際には、ICTを用いた情報収集やプレゼンテーションソフトを用いた共有と発表を課す。ハンドアウト(配布印刷物もしくは電子ファイル)を活用して進め、授業毎にコメントシートの提出を求める。資料配布や課題提出は、LMS(講義支援システム)のGoogle Classroom を用いて行う。
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業指導（進路指導・キャリア教育）の位置付けを理解している</li> <li>・学校の教育活動全体を通じた職業指導（進路指導・キャリア教育）の視点と指導の在り方を例示することができる</li> <li>・職業指導（進路指導・キャリア教育）における組織的な指導体制及び家庭や関係諸機関との連携の在り方を理解している</li> <li>・キャリア・ガイダンスに関する諸理論の説明や、ツールを適切に使用することができる</li> </ul>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修上の注意	<p>【本講義は教職履修者のみが受講可能です】</p> <p>(a) 本科目は通年履修科目であり、当該授業計画欄は前期の授業実施計画分を記載したものである。前期2単位を履修してから、後期2単位を履修しなければならない。そのため、本科目を履修せずに、後期の科目を履修することはできない。</p> <p>(b) 教育実習、就職活動等であらかじめ出席できない日がわかっている場合には、事前に申し出ておくこと。</p> <p>(c) 4回以上欠席した者の単位認定は行わない。</p>
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ノートPCの利用	毎講義、利用する。
----------	-----------

教科書・教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山口豊一編『学校心理学の理論から創る生徒指導と進路指導・キャリア教育』（2022）</li> <li>・上記の教科書に加え、講義中に資料を配布する。参考文献などは随時紹介する。</li> </ul>
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺三枝子編著（2003）「キャリアの心理学 働く人の理解（発達理論と支援への展望）」ナカニシヤ出版</li> <li>・木村周（2018）「キャリアコンサルティング 理論と実際」5訂版 雇用問題研究会</li> </ul>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応				
4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる				
3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる				
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる				
1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない				

知識を取り込む力	4	問題発見・解決力	3	コミュニケーション力	2
社会貢献力	3	コラボレーション力	2	専門的知識・技能の活用力	4

成績評価方法	試験（60％）、授業毎の小レポート（20％）、レポート（20％）を基本として評価する。
--------	---------------------------------------------

ループリック				
ループリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの				
評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用して				
ください。				

	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点	評価基準			
1 職業指導（進路指導・キャリア教	1 人生における職業指導（進路指導・キャリア	1 学校段階における職業指導（進路指導・	1 学校段階における職業指導（進路指導・	1 学校段階における職業指導（進路指導・

育)の位置付けを理解している	1	リア教育)の位置付けを理解し、定義に則した上で自分の言葉で言い換え、補足、説明ができる	2	キャリア教育)の位置付けを理解し、定義に則して説明できる	3	キャリア教育)の位置付けを理解しているが、説明がたどたどしい(短すぎる/冗長)	4	キャリア教育)の位置付けを理解しておらず、説明もできない
2 学校の教育活動全体を通じた職業指導(進路指導・キャリア教育)の視点と指導の在り方を例示することができる	2 1	学校の教育活動全体を通じた職業指導(進路指導・キャリア教育)の視点と指導の在り方を例示することができる	2 1	学校の教育活動全体を通じた職業指導(進路指導・キャリア教育)の視点と指導の在り方を例示することができる	2 3	学校の教育活動全体を通じた職業指導(進路指導・キャリア教育)の視点と指導の在り方を説明できるが、例示できない	2 4	学校の教育活動全体を通じた職業指導(進路指導・キャリア教育)の視点と指導の在り方を説明できず、例示もできない
3 職業指導(進路指導・キャリア教育)における組織的な指導体制及び家庭や関係諸機関との連携の在り方を理解している	3 1	職業指導(進路指導・キャリア教育)における組織的な指導体制及び家庭や関係諸機関との連携の在り方を理解し、事例について検討できる	3 2	職業指導(進路指導・キャリア教育)における組織的な指導体制及び家庭や関係諸機関との連携の在り方を理解している	3 3	職業指導(進路指導・キャリア教育)における組織的な指導体制は理解しているが、家庭や関係諸機関との連携の在り方を理解していない	3 4	職業指導(進路指導・キャリア教育)における組織的な指導体制及び家庭や関係諸機関との連携の在り方のいずれも理解していない
4 キャリア・ガイダンスに関する諸理論の説明や、ツールを適切に使用することができる	4 1	キャリア・ガイダンスに関する諸理論の説明や、ツールを適切に使用することができる	4 2	キャリア・ガイダンスに関する諸理論の説明や、ツールを適切に使用することができる	4 3	キャリア・ガイダンスに関する諸理論について理解しているが、ツールを適切に使用することができない	4 4	キャリア・ガイダンスに関する諸理論について理解しておらず、ツールを適切に使用することができない
5	5 1		5 2		5 3		5 4	
6	6 1		6 2		6 3		6 4	

試験・レポート等に対するフィードバック

試験については講評を出し、レポートについては次回授業時に解説を行う。

授業時間外の学習内容(※学習時間は講義1回あたりに必要な時間)

事前学習	事前学習として、配布資料内での問いに対する小レポートを書く。	時間	1
事後学習	各講義内容の振り返り	時間	1

授業計画

第1週 テーマ	近年の雇用をめぐる諸問題(1) 就業率・進学率・離職率
第1週 学習内容	近年の雇用をめぐる諸問題を、種々のデータから考える
第2週 テーマ	近年の雇用をめぐる諸問題(2) 若年者の就労状況
第2週 学習内容	近年の雇用をめぐる諸問題(特に若年者対象)を、種々のデータから考える
第3週 テーマ	近年の雇用をめぐる諸問題(3) 若年求職者のための雇用政策(諸機関との連携)
第3週 学習内容	近年の雇用をめぐる諸問題(特に若年者対象)を、種々のデータから考える
第4週 テーマ	職業指導(進路指導・キャリア教育)の意義
第4週 学習内容	職業指導(進路指導・キャリア教育)の意義について理解する
第5週 テーマ	キャリア・ガイダンスの定義とその実践的意義
第5週 学習内容	キャリア・ガイダンスの定義と研究動向について理解する
第6週 テーマ	キャリア・ガイダンスの理論(1)

第6週 学習内容	キャリア・ガイダンスの理論について概観する
第7週 テーマ	キャリア・ガイダンスの理論（2）
第7週 学習内容	キャリア・ガイダンスの理論について概観する
第8週 テーマ	職業適性評価の意義と役割
第8週 学習内容	職業適性評価の意義と評価のための理論的背景、役割について理解する
第9週 テーマ	職業適性評価の手法（1）
第9週 学習内容	職業適性評価の手法について学び、どのような理論的背景があるかを理解する
第10週 テーマ	職業適性評価の手法（2）
第10週 学習内容	職業適性評価の手法について学び、どのような理論的背景があるかを理解する
第11週 テーマ	適性評価の実施と解釈（1）
第11週 学習内容	職業適性評価の手法について学び、実際に実施・採点・解釈を行う
第12週 テーマ	適性評価の実施と解釈（2）
第12週 学習内容	職業適性評価の実施・採点・解釈を行い、他者と共有する
第13週 テーマ	多様化するキャリア ノーマライゼーションとは
第13週 学習内容	キャリアが多様化する中で、現状での問題点を考える
第14週 テーマ	講義のまとめ
第14週 学習内容	講義やハンドアウトを参考に、これまでに学んだことを整理し、理解度の確認を行う
備考	
備考	

授業コード	1560022001				
科目授業名 [付記情報]	職業指導2			単位数	2
開講学期	2022年度 秋学期	授業区分	週間授業	曜日時限	金曜5限
教員氏名(カナ)	小菅 清香 (コスゲ サヤカ)				

教員の実務経験有無	有	実務経験	労働政策研究・研修機構（キャリア支援部門）での研究経験や、職業レディネス・テストの改訂に関わる委員経験をもとに、キャリアに関する近年の知見などを交えながら、職業指導（進路指導・キャリア教育）について学生と共に考えていきます。
-----------	---	------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業の目的と概要	本講義では、教師として職業指導（進路指導・キャリア教育）を行うために必要な基礎知識やスキルの習得を目的とする。後期は職業情報、職業分類等、職業に関わる知識を整理した後、キャリア・カウンセリングの方法に関する基礎的な理論と方法の習得を目指す。実習として、グループワークやロールプレイング等を行う。 授業では、講義とディスカッションを組み合わせた演習形式の授業を行う。発表の際には、ICTを用いた情報収集やプレゼンテーションソフトを用いた共有と発表を課す。ハンドアウト(配布印刷物もしくは電子ファイル)を活用して進め、授業毎にコメントシートの提出を求める。資料配布や課題提出は、LMS(講義支援システム)のGoogle Classroom を用いて行う。
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業情報、職業分類等、職業に関わる知識を整理し、述べることができる</li> <li>・キャリア・カウンセリングに関する諸理論について説明できる</li> <li>・キャリア・ガイダンスで用いるツールを適切に使用することができる</li> <li>・グループワークやロールプレイングを通じて、事例に基づいた討議ができる</li> </ul>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修上の注意	<p>【本講義は教職履修者のみが受講可能です】</p> <p>(a) 本科目は通年履修科目であり、当該授業計画欄は後期の授業実施計画分を記載したものである。前期2単位を履修していない者は、後期2単位を履修することはできない。</p> <p>(b) 教育実習、就職活動等であらかじめ出席できない日がわかっている場合には、事前に申し出ておくこと。</p> <p>(c) 4回以上欠席した者の単位認定は行わない。</p>
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ノートPCの利用	毎講義、利用する。
----------	-----------

教科書・教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山口豊一編『学校心理学の理論から創る生徒指導と進路指導・キャリア教育』（2022）</li> <li>・上記の教科書に加え、講義中に資料を配布する。参考文献などは随時紹介する。</li> </ul>
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺三枝子編著（2003）「キャリアの心理学 働く人の理解（発達理論と支援への展望）」ナカニシヤ出版</li> <li>・木村周（2018）「キャリアコンサルティング理論と実際」5訂版 雇用問題研究会</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応	4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる
	3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる
	2：当該資質・能力を育成するのの一部あてはまる
	1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない

知識を取り込む力	4	問題発見・解決力	4	コミュニケーション力	4
社会貢献力	2	コラボレーション力	2	専門的知識・技能の活用力	4

成績評価方法	試験（40%）、授業毎の小レポート（20%）、レポート2本（40%）を基本として評価する。
--------	-----------------------------------------------

ルーブリック	ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用してください。
--------	-----------------------------------------------------------------------------

	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点	評価基準			
1 職業情報、職業分類等、職業に関わる知識を整理し、述べるることができる	1 職業情報、職業分類等、職業に関わる知識を整理し、具体的職業を複数例示しない	1 職業情報、職業分類等、職業に関わる知識を整理し、具体的職業を一つ例示しない	1 職業情報、職業分類等、職業に関わる知識について、説明が冗長／不十分である	1 職業情報、職業分類等、職業に関わる知識を理解しておらず、整理して述べるできない

		がら述べるこ がで る	がら述べるこ がで る		
2	キャリア・カ ウン セ リ ン グ に 関 す る 諸 理 論 に 関 す る 説 明 で き る	2 — 1 2 2	2 — 2 2	2 — 3 3	2 — 4 4
3	キャリア・ガイ ダ ン ス で 用 い る ツ ー ル を 適 切 に 使 用 す る こ と が で き る	3 — 1 3	3 — 2 3	3 — 3 3	3 — 4 4
4	グル ー プ ワ ー ク や ロ ー ル プ レ イ ン グ を 通 じ て 、 事 例 に 基 づ い た 討 議 が で き る	4 — 1 4	4 — 2 4	4 — 3 4	4 — 4 4
5		5 — 1 5	5 — 2 5	5 — 3 5	5 — 4 5
6		6 — 1 6	6 — 2 6	6 — 3 6	6 — 4 6

試験・レポート  
等に対するフィ  
ードバック

試験については講評を出し、レポートについては次回授業時に解説を行う。

#### 授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）

事前学習	事前学習として、配布資料内での問いに対する小レポートを書く。	時間	1
事後学習	各講義内容の振り返り	時間	1

#### 授業計画

第1週 テーマ	教育と進路指導（1）オリエンテーションと高等学校における職業（進路）指導の実情
第1週 学習内 容	オリエンテーションを行い、今後の授業の進め方について確認する。高等学校における職業指導（進路指導・キャリア教育）の実情について、実際の調査から理解する
第2週 テーマ	職業の定義、職業分類、産業分類
第2週 学習内 容	職業の定義、職業分類、産業分類といった分類を理解する
第3週 テーマ	職業情報の内容と理解
第3週 学習内 容	「職業情報」として扱われる情報の内容について知り、理解する
第4週 テーマ	職業情報の取得と伝達方法
第4週 学習内 容	職業情報の取得方法について知り、生徒への伝達の仕方を考える
第5週 テーマ	職業を素材としたグループワーク（1）職業情報調べとその発表
第5週 学習内 容	ある特定の職業について調べ、その内容について発表・議論する
第6週 テーマ	職業を素材としたグループワーク（2）職業情報調べとその発表
第6週 学習内 容	ある特定の職業について調べ、その内容について発表・議論する
第7週 テーマ	職業を素材としたグループワーク（3）職業情報調べとその発表
第7週 学習内 容	ある特定の職業について調べ、その内容について発表・議論する

第8週	テーマ	キャリア・カウンセリングの理論（1）
第8週	学習内容	キャリア・カウンセリングの理論について概観する
第9週	テーマ	キャリア・カウンセリングの理論（2）
第9週	学習内容	キャリア・カウンセリングの理論について概観する
第10週	テーマ	キャリア・カウンセリングの実習準備
第10週	学習内容	キャリア・カウンセリングの実習に向けて、必要な知識や心構えを学ぶ
第11週	テーマ	キャリア・カウンセリングの実習（1）
第11週	学習内容	受講者の中で教師、生徒と役割を決めて、職業（進路）相談のロールプレイを行う
第12週	テーマ	キャリア・カウンセリングの実習（2）
第12週	学習内容	受講者の中で教師、生徒と役割を決めて、職業（進路）相談のロールプレイを行う
第13週	テーマ	進路指導プログラムの構築
第13週	学習内容	これまで学んだ内容をふまえ、進路指導プログラムを構築する
第14週	テーマ	講義のまとめ
第14週	学習内容	講義やハンドアウトを参考に、これまでに学んだことを整理し、理解度の確認を行う
備考		
備考		

授業コード	2050110001				
科目授業名 [付記情報]	生徒・進路指導の理論と方法			単位数	2
開講学期	2022年度 春学期	授業区分	週間授業	曜日時限	金曜2限
教員氏名(カナ)	東風 安生 (コチ ヤスオ)				

教員の実務経験有無	有	実務経験	<p>【東風安生】元公立小学校教諭、元私立小学校教諭、私立小学校教頭、元学校法人早稲田実業学校評議員 上記の実務経験を活かして、学校現場における教師の現像を多方面（学級担任の立場、管理職の立場、経営者の立場）から紹介し、その課題と解決方法について学生と共に考えていきます。</p> <p>【小菅清香】労働政策研究・研修機構（キャリア支援部門）での研究経験をもとに、キャリアに関する近年の知見などを交えながら、進路指導の理論と方法について支援します。</p>	
授業の目的と概要	<p>学校教育の柱である生徒指導と進路指導の実践的な理論と課題について学ぶ。またこれまでに児童・生徒として受けてきた教育体験をもとに、生徒・進路指導を指導するための基礎知識を学習することを目指す。</p> <p>1. 生徒指導の教育的意義と課題は何か、特色はどのようなものか、今後の取組について学ぶ。</p> <p>2. 生徒の進路指導の原理と実践に関して理解を深める。併せて、現在実践されているキャリア教育の視点取組の実際について学ぶ。</p>			
到達目標	<p>1 生徒の生活と進路を取り巻く現実の環境について視野を広げる。</p> <p>2 今まで受けてきた生活・進路指導の実体験を、生徒指導・生活指導論、進路教育・キャリア教育論に照らして振り返り、実践的な理解を深める。</p>			
履修上の注意	<p>【本講義は教職履修者のみが受講可能です】</p> <p>日頃から新聞・テレビ・ネットニュース等々、教育時事問題に関心を持つよう心掛けて欲しい。さらに、報道内容に関して自分なりの意見をもち、説明できるよう心掛けて欲しい。</p>			
ノートPCの利用	<p>教科書として示したデータを文部科学省HPからダウンロードしておくこと。</p> <p>このデータをノートPC用いて授業中に利用するので毎回持参すること。</p>			
教科書・教材	<p>文部科学省『生徒指導提要』教育図書（2010）</p> <p>文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』文部科学省（2011）</p> <p>山口豊一編『学校心理学の理論から創る生徒指導と進路指導・キャリア教育』（2022）</p>			
参考文献	<p>授業時に適時、紹介する。</p>			

## ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応

4 : 当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる					
3 : 当該資質・能力を育成するのにあてはまる					
2 : 当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる					
1 : 当該資質・能力を育成するのにあてはまらない					
知識を取り込む力	3	問題発見・解決力	4	コミュニケーション力	3
社会貢献力	4	コラボレーション力	4	専門的知識・技能の活用力	3

成績評価方法	<p>定期試験：40%</p> <p>レポート：30%</p> <p>授業への参加度：30%</p> <p>①定期試験（理解度、表現力、論理性、独自性など）</p> <p>②レポート（各回の小レポートなど）</p> <p>③授業への参加度（グループワークへの取組、授業態度、発表など）</p>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ルーブリック

ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの
評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用して
ください。

	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点	評価基準			
1 知識・技能 (20%)	1 学校現場で教師に求められる生徒指導や進路指導に関する「知」の部分について	1 学校現場で教師に求められる生徒指導や進路指導に関する「知」の部分について	1 学校現場で教師に求められる生徒指導や進路指導に関する「知」の部分について	1 学校現場で教師に求められる生徒指導や進路指導に関する「知」の部分について

		て完全に理解し、指導に当たっての技能に習熟できている。	てある程度理解し、指導に当たっての技能が身につけている。	て部分的に理解し、指導に当たっての技能が部分的に身につけている。	て理解せず、指導に当たっての技能が身につけていない。
2	問題発見・解決力 (30%)	2 1	2 2	2 3	2 4
3	主体性 (30%)	3 1	3 2	3 3	3 4
4	協調性 (20%)	4 1	4 2	4 3	4 4
5		5 1	5 2	5 3	5 4
6		6 1	6 2	6 3	6 4

試験・レポート等に対するフィードバック	提出物は確認の上、返却します。記載内容における重要な気づきやクラスの相乗効果が得られる情報は、授業内で紹介します
---------------------	----------------------------------------------------------

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）			
事前学習	授業内容について、必ず自分の体験に基づいた意見をグループ討論の中で発言できるようにして授業に臨むこと。	時間	1時間
事後学習	毎時間、授業の理解度を確認するためミニットカード形式のレポートの提出を求める。（次週までに提出）	時間	1時間

授業計画	
第1週 テーマ	オリエンテーション【担当:東風】
第1週 学習内容	生徒指導と進路指導との関係及びその意義と現代的課題
第2週 テーマ	生徒指導の意味と理論【担当:東風】
第2週 学習内容	学校教育の柱の一つである生徒指導の意味と理論の検討
第3週 テーマ	生徒指導の方法1（全体指導）【担当:東風】
第3週 学習内容	生徒指導は問題行動への対応ではなく、未然防止のための対応であることを理解する。
第4週 テーマ	生徒指導の方法2（個別指導）【担当:東風】
第4週 学習内容	問題行動を未然に防ぐための組織的対応の重要性について理解する。
第5週 テーマ	いじめ問題とその対応【担当:東風】
第5週 学習内容	いじめ問題に対する理解とその具体的な対処法を事例を参考に検討する。
第6週 テーマ	不登校生徒への対応【担当:東風】
第6週 学習内容	不登校に対する理解とその具体的な対処法を事例を参考に検討する。
第7週 テーマ	生徒指導に関わる法的枠組み【担当:東風】

第7週 学習内容	「体罰」や「出席停止」の法的問題の在り方を事例を参考に考察する
第8週 テーマ	進路指導とキャリア教育【担当:小菅】
第8週 学習内容	進路指導及びキャリア教育の歴史の変遷と意義を理解する。
第9週 テーマ	進路指導とキャリア教育の理論【担当:小菅】
第9週 学習内容	進路指導・キャリア教育の理論の検討
第10週 テーマ	進路指導とキャリア教育の方法1（ガイダンス）【担当:小菅】
第10週 学習内容	全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。
第11週 テーマ	進路指導とキャリア教育の方法2（カウンセリング）【担当:小菅】
第11週 学習内容	児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。
第12週 テーマ	各学校段階における進路指導・キャリア教育の実践と現状【担当:小菅】
第12週 学習内容	各学校段階における進路指導・キャリア教育を概観し、発達課題と関連付けて理解する。
第13週 テーマ	生徒指導・進路指導の実践に向けて1【担当:小菅】
第13週 学習内容	学校教育における生徒指導・進路指導の役割を理論的側面から再確認する。
第14週 テーマ	生徒指導・進路指導の実践に向けて2【担当:東風】
第14週 学習内容	学校教育における生徒指導・進路指導の役割を実践的な側面から再確認する。
備考	
備考	

授業コード	3911720001			
科目授業名 [付記情報]	道徳教育の研究	単位数	2	
開講学期	2022年度 秋学期	授業区分	週間授業	曜日時限
教員氏名(カナ)	小泉 博明 (コイズミ ヒロアキ)			

教員の実務経験有無	有	実務経験	この科目は該当授業に関する実務の経験を有する教員が実務経験を活かして講義等を行う科目である。	
授業の目的と概要	道徳教育の意義や内容について理解することができる。 道徳教育の指導計画、教材研究及び学習指導案の作成、模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付けることができる。 道徳教育を行うための方法や技術 (ICT活用の技術) を身に付けることができる。			
到達目標	道徳の学習指導要領の内容を理解し、その意義や内容について説明することができる。 道徳教育の「学習指導案」を構想し作成することができる。また関連するワークシートを作成することができる。 模擬授業を実践し、他者の模擬授業に対してコメントができる。			
履修上の注意	本講義は教職履修者のみ受講可能である。出席状況を重視するので注意すること。			
ノートPCの利用	指示した時に利用すること。			
教科書・教材	教科書：文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）特別の教科 道徳編』教育出版 156円＋税 ISBN978-4-316-3084-9C3037			
参考文献	講義中に適宜、指示する。			

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応					
4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる					
3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる					
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる					
1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない					
知識を取り込む力	3	問題発見・解決力	3	コミュニケーション力	4
社会貢献力	4	コラボレーション力	3	専門的知識・技能の活用力	3

成績評価方法	授業への積極性のある参加態度と毎回のコメントシート（30%）、学習指導案の作成と模擬授業の実践（40%）、課題レポート（30%）により総合的に評価する。
--------	------------------------------------------------------------------------------

ルーブリック				
ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの				
評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用して				
ください。				

		目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点		評価基準			
1	内容理解	授業の内容を理解して、的確に発言したり、文章でまとめたることができる。	授業の内容を理解して、発言したり、文章にまとめたることができる。	授業の内容を理解して、発言したり、文章でまとめたることができるがあまりできない。	授業の内容を理解して、発言したり、文章でまとめたることができるができない。
2	意欲的な参加度	授業に意欲的に参加し、授業の内容を深く考察し、自分の意見を適切に述べるることができる。	授業に意欲的に参加し、授業の内容を考察し、自分の意見を述べることができる。	授業に意欲的に参加し、授業の内容を考察し、自分の意見を述べるのがややできない。	授業に意欲的に参加し、授業の内容を考察し、自分の意見を述べるのができない。
3	プレゼンテーション	授業の内容を踏まえて、非常に論理的に説得力のある自分の意見を述べるることができる。	授業の内容を踏まえて、非論理的に自分の意見を述べるることができる。	授業の内容を踏まえて、論理的に自分の意見を述べるのがややできる。	授業の内容を踏まえて、論理的に自分の意見を述べるのができない。
4	模擬授業	学習指導案を的確に作成し、模擬授業を	学習指導案を作成し、模擬授業を実践	学習指導案を作成し、模擬授業を	学習指導案を作成できず、模擬授業を実

		1	巧みに実践することができる。	2	することができる。	3	うじて実践することができる。	4	践することができない。
5		5		5		5		5	
		1		2		3		4	
6		6		6		6		6	
		1		2		3		4	

試験・レポート等に対するフィードバック	課題については、次回に講評を行う。模擬授業に対して、振り返りや講評を行う。
---------------------	---------------------------------------

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）			
事前学習	教科書を読み、事前に提示した課題を調べること。とくに模擬授業では、教材研究や学習指導案を作成すること。	時間	2時間
事後学習	課題について、さらに問題点を検討すること。とくに模擬授業では振り返り（省察）を行うこと。	時間	2時間

授業計画	
第1週 テーマ	道徳と何か
第1週 学習内容	道徳の本質（道徳とは何か）について理解する。
第2週 テーマ	道徳教育の歴史と道徳教育の現代的課題
第2週 学習内容	道徳教育の歴史及び、現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル、生命倫理等）を理解する。また、道徳教育におけるICT活用について学ぶ。
第3週 テーマ	高校生の道徳性の発達
第3週 学習内容	生徒（高校生）の心の成長及び道徳性の発達を理解する。
第4週 テーマ	学習指導要領における道徳教育の目標
第4週 学習内容	高等学校学習指導要領に提示された道徳教育の目標並びに主な内容を理解する。また、中学校学習指導要領を参照し、中学校「道徳科」についても理解を深める。
第5週 テーマ	道徳教育の指導計画と全体計画
第5週 学習内容	学校における道徳教育の指導計画及び教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。学校の道徳教育の全体計画について学ぶ。
第6週 テーマ	道徳教育における指導方法
第6週 学習内容	道徳教育における指導方法（問題解決的な学習や体験的な活動等）の特徴を理解する。
第7週 テーマ	学修指導案の作成技法
第7週 学習内容	「総合的な探究の時間」等における道徳教育の授業設計を踏まえ、テーマを設定し学習指導案を作成する技法を学ぶ。
第8週 テーマ	学習指導案の作成
第8週 学習内容	授業のねらい及び学習課程を明確にして、学習指導案を作成する。
第9週 テーマ	模擬授業の実践(1)
第9週 学習内容	高等学校における道徳教育の模擬授業(1)・振り返り・講評
第10週 テーマ	模擬授業の実践(2)
第10週 学習内容	高等学校における道徳教育の模擬授業(2)・振り返り・講評
第11週 テーマ	模擬授業の実践(3)
第11週 学習内容	高等学校における道徳教育の模擬授業(3)・振り返り・講評
第12週 テーマ	模擬授業の実践(4)
第12週 学習内容	高等学校における道徳教育の模擬授業(4)・振り返り・講評

容	
第13週 テーマ	模擬授業の実践(5)
第13週 学習内容	高等学校における道德教育の模擬授業(5)・振り返り・講評
第14週 テーマ	まとめと全体講評
第14週 学習内容	グループ討議を通して模擬授業を振り返り(省察)、授業改善の視点を身に付ける。まとめと全体講評を行う。
備考	
備考	

授業コード	2050320001				
科目授業名 [付記情報]	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		単位数	2	
開講学期	2022年度 秋学期	授業区分	週間授業	曜日時限	金曜4限
教員氏名(カナ)	東風 安生 (コチ ヤスオ)				

教員の実務経験 有無	有	実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元公立小学校教諭</li> <li>・元私立小学校教諭、私立小学校教頭</li> <li>・元学校法人早稲田実業学校評議員</li> </ul> 以上の実務経験を活かして、学校現場における教師の現像を多方面（学級担任の立場、管理職の立場、経営者の立場）から紹介し、その課題と解決方法について学生と共に考えていきます。
授業の目的と概要	特別活動、特に学級活動の指導は、学校における全教育活動の基盤となる。望ましい学級づくりができるということは、充実した教科指導や適切な生徒指導実践できることを意味する。本授業では、教育課程に位置づく特別活動についての理解を深め、特別活動を適切に指導できる教師となるための基礎的な知識・技能を培うことを目的とする。		
到達目標	1. 特別活動および学級活動・生徒会活動・学校行事の意義、目標、内容等について理解し、「学級活動」・「生徒会活動」・「学校行事」の指導計画の理解等に結び付ける。 2. 特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画を理解し、具体的場面における適切な指導を想起することができる。 3. 生徒が望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりをめざすことができるよう、学習指導案の作成手順や方法の理解をもとに模擬授業を行うことができる。		
履修上の注意	教育現場での特別活動は教科指導ほどは、「シナリオ」通りに授業が進行しないことが多く、そのため臨機応変な対応が求められる。本授業では指導案を作成し学級活動の模擬授業実践を行うが、その際、生徒の立場に立った発問や意見を、自己の学校経験を参考に想定できるよう心掛けて欲しい。 生徒自身は誰もが特別活動や総合的な学習の時間を経験してきている。しかし、自分の経験がすべてではない。経験を一つの軸にするが、他方で教育法規的な視点で分析していくとらえ方ができることを強調したい。		
ノートPCの利用	ノートPCにインストールされた学習指導要領を確認したり、YouTubeによって特別活動の実践や総合的な探究の時間の動画を閲覧するので、毎回必ず持参すること。		
教科書・教材	『高等学校学習指導要領解説?特別活動編?』文部科学省（2018）文部科学省HPサイトからダウンロード可 『高等学校学習指導要領解説—総合的な探究の時間編』文部科学省（2018）同HPサイトからダウンロード可		
参考文献	『高等学校学習指導要領解説?総則編?』文部科学省（2018）文部科学省HPサイトからダウンロード可 NHK高校講座「総合的な探究の時間」 地域社会と連携を図る意味も含み、横浜市内の高等学校に積極的に総合的な探究の時間の授業参加を依頼する。この授業参観に学生は積極的に参加して、理論と方法を実際の観察学習から整理してほしい。		

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応					
4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる					
3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる					
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる					
1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない					
知識を取り込む力	4	問題発見・解決力	3	コミュニケーション力	3
社会貢献力	3	コラボレーション力	3	専門的知識・技能の活用力	3

成績評価方法	定期試験...70% 授業に対する取り組み...30% ※授業ごとに自分自身のふりかえりを記述する。これを担当教員がルーブリックの基準で評価をする。 「S」4点 「A」3点 「B」2点 「C」1点 14回の授業のうち、ふりかえりコメントの評価がよいものから10回分を自分自身の授業への取り組みの評価として、カウントする。 (例) A君 ①A ②B ③A ④S ⑤欠 ⑥A ⑦A ⑧C ⑨A ⑩A ⑪B ⑫C ⑬A ⑭A A君の授業に対する取り組み ⇒ 8回分×3点「A評価」 2回分×2点「B評価」 合計28点
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ルーブリック	ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの
--------	-------------------------------------

評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用して ください。								
	目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要				
評価観点	評価基準							
1 知識・技能 (35%)	1 — 1	特別活動や総合的な探究の時間についての知識を十分に身に付け、具体的な指導をぬかりなく実践できる。	1 — 2	特別活動や総合的な探究の時間についての知識をほぼ身に付け、具体的な指導が実践できる。	1 — 3	特別活動や総合的な探究の時間についての知識を部分的に身に付け、具体的な指導を助言を借りながら実践できる。	1 — 4	特別活動や総合的な探究の時間についての理解せず、具体的な指導がほぼできない。
2 思考力及び表現力 (30%)	2 — 1	特別活動や総合的な探究の時間について自分の経験をもとに法的根拠を加えて、十分なカリキュラムを創造することができる。	2 — 2	特別活動や総合的な探究の時間について自分の経験をもとに法的根拠を加えて、ある程度納得できるカリキュラムを創造することができる。	2 — 3	特別活動や総合的な探究の時間について部分的なカリキュラムを創造することができる。	2 — 4	特別活動や総合的な探究の時間について自分の経験を語るのみで、新たなカリキュラムを創造することができない。
3 主体的で協働する 態度 (35%)	3 — 1	グループで協働して、特別活動や総合的な探究の時間の学習指導案が十分に作成できる。	3 — 2	グループで協働して、特別活動や総合的な探究の時間の学習指導案がほぼ作成できる。	3 — 3	グループで協働して、特別活動や総合的な探究の時間の学習指導案が部分的に作成できる。	3 — 4	グループで協働して、特別活動や総合的な探究の時間の学習指導案が完成しない。
4	4 — 1		4 — 2		4 — 3		4 — 4	
5	5 — 1		5 — 2		5 — 3		5 — 4	
6	6 — 1		6 — 2		6 — 3		6 — 4	
試験・レポート等に対するフィードバック	毎回ミニットペーパーを提出したものについて、指導者側がコメントを記入。また、評価を記入する。このコメントに対してさらなる意見や評価に対する疑義等があれば、授業終了後およびアワーに話し合いの時間を設ける。							

## 授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）

事前学習	学習指導要領において、当該の講義内容に該当するページを精読しておく。 不明な部分やわからない言葉はチェックしておく。	時間	1.5時間
事後学習	学習指導要領において、当該の授業で学んだ点がどのように記述されているか読み返す。 具体的な授業等を動画（YouTube）などで閲覧する。	時間	2.5時間

## 授業計画

第1週 テーマ	オリエンテーション
第1週 学習内容	「高等学校学習指導要領・特別活動編および総合的な探究の時間」の目標の分析を通して特別活動や総合的な探究の時間の意義を理解する。
第2週 テーマ	特別活動の内容と特質
第2週 学習内容	「中学校学習指導要領・特別活動編」の内容と方法を分析することでその特質を理解する。
第3週 テーマ	特別活動と評価
第3週 学習内容	「指導の過程」に着目し「指導の改善」に役立てることが評価の意義であることを理解する。
第4週 テーマ	特別活動の成立と発展
第4週 学習内容	特別活動の歴史の変遷を理解することで、特別活動の基本的な性格について考察する。 また、集団づくりだけでなくキャリア教育の観点からの授業展開が求められていることを理解する。
第5週 テーマ	特別活動と学級会活動
第5週 学習内容	生徒にとって望ましい学級の在り方や学習環境を特別活動の授業設計を通して考える。

容	
第6週 テーマ	特別活動と諸行事
第6週 学習内容	学級活動の目標、内容、学級の役割の理解を通して「望ましい集団づくり」を考える。 また、学校行事の目標や内容についての理解を参考に、学校行事の意義について考える。
第7週 テーマ	教材・指導案の作成
第7週 学習内容	グループワークを通して、生徒が集団意識やキャリア意識を高める教材や指導案を作成する。
第8週 テーマ	模擬授業
第8週 学習内容	模擬授業を実践し、各グループで討議する。
第9週 テーマ	総合的な探究の時間の目標と意義
第9週 学習内容	他教科・科目における探究との違いを踏まえ、探究が高度化し自律的に行われることが「総合的な探究の時間」の目標であることを確認し「探究の見方・考え方」を働かせて横断的・総合的な学習を行うことで、自己の在り方生き方を考えながらよりよく課題を発見していく資質能力の育成に意義がある点を理解する。
第10週 テーマ	総合的な探究の時間の年間指導計画と単元計画
第10週 学習内容	各学校で定めた目標を適切に実施するために、全体計画・年間指導計画や単元計画などがあることを理解し、実際に総合的な探究の時間の目標と意義をふまえたカリキュラムを作成する。
第11週 テーマ	総合的な探究の時間の学習指導と評価
第11週 学習内容	総合的な探究の時間における指導のポイントとして、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の各項目ごとにどのように具体的に指導するか動画や学習指導案を見ながら考察する。また、授業に対する評価や生徒の学習状況に対する評価を具体的に考える。
第12週 テーマ	教材・指導案の作成
第12週 学習内容	グループワークを通して、生徒が課題意識を高めてこれを探究することをねらいとした総合的な探究の時間の学習指導案を作成する。
第13週 テーマ	模擬授業
第13週 学習内容	模擬授業を実践し、各グループで討議する。
第14週 テーマ	今後の育成すべき資質能力と特別活動・総合的な探究の時間
第14週 学習内容	地球的規模の諸課題にどのように対応すべきか、特別活動や総合的な探究の時間の視点から考える。
備考	
備考	

授業コード	2050220001			
科目授業名 [付記情報]	特別支援教育	単位数	2	
開講学期	2022年度 秋学期	授業区分	週間授業	曜日時限
教員氏名(カナ)	中野 泰志 (ナカノ ヤスシ)			

教員の実務経験 有無	有	実務経験	元国立特別支援教育総合研究所・主任研究官、元国立障害者リハビリテーションセンター研究所・非常勤研究員。東京都や横浜市等の特別支援学校の学校評議員、内閣府「障害者政策委員会」や文部科学省「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議」等の専門委員等を担当。これまで、障害のある児童生徒の教育相談活動、特別支援教育に関する教員研修、特別支援学校の評議員、国や自治体の特別支援教育・障害者（児）福祉関係の委員等を担当してきた実務経験をもとに特別支援教育の実際について話をします。また、東京大学先端科学技術研究センターで障害のある人達の生活や学習を支援する支援技術研究に従事してきた経験に基づき、特別支援教育におけるICT機器や支援技術の利活用の実践についても言及します。
---------------	---	------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業の目的と概要	特別支援教育は、高等学校教諭免許状を取得するために必要とされている「教育の基礎的理解に関する科目」です。この講義では、通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法（ICT等の支援技術の活用を含む）を理解します。
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における特別支援教育制度の背景や現状について説明できる</li> <li>・インクルーシブ教育システムについて説明できる</li> <li>・障害の概念の変遷や特別支援教育の歴史について説明できる</li> <li>・障害を理由とする差別的取扱や特別な支援を必要とする幼児、児童に必要な合理的配慮について説明できる</li> <li>・個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する意義や方法を説明できる</li> <li>・視覚障害（弱視を含む）、聴覚障害（難聴、言語障害を含む）、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、情緒障害、自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の心身の特性、学習上又は生活上の困難さ、教育課程、支援方法（支援技術やICTの活用を含む）について説明できる</li> <li>・障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難さ、教育課程、支援方法について説明できる</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は対面で実施するが、一部、オンライン（オンデマンド配信）も併用する</li> <li>・スライドのハンドアウト等の資料類はGoogle Classroom上に掲載する</li> <li>・毎回の授業で指示するリアクションペーパーや学期末レポート等の課題は、授業外学習として行うこと</li> <li>・課題（リアクションペーパーや学期末レポート等）は締切日までにGoogle Classroomから提出すること</li> </ul>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ノートPCの利用	Google Classroomを利用して、動画や資料等を配信したり、レポート等を受け付けるため、毎回の授業で利用すること
----------	---------------------------------------------------------------

教科書・教材	Google Classroomを通じて、スライドのハンドアウト、参考にすべき文献、メディア資料等のリンクを共有する
--------	------------------------------------------------------------

参考文献	講義ごとに随時紹介する
------	-------------

ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応				
4：当該資質・能力を育成するのに大いにあてはまる				
3：当該資質・能力を育成するのにあてはまる				
2：当該資質・能力を育成するのに一部あてはまる				
1：当該資質・能力を育成するのにあてはまらない				

知識を取り込む力	3	問題発見・解決力	4	コミュニケーション力	2
社会貢献力	4	コラボレーション力	2	専門的知識・技能の活用力	1

成績評価方法	リアクションペーパー（毎回）70点、期末レポート30点
--------	-----------------------------

ルーブリック	ルーブリックとは身につけるべき知識および能力について、達成レベルごとの
--------	-------------------------------------

評価基準を示したものです。自身の学習状況を確認するツールとして利用して ください。					
		目標以上	目標達成	あと少し	努力が必要
評価観点		評価基準			
1	特別支援教育制度の知識・理解	1 — 1	1 — 2	1 — 3	1 — 4
2	各障害の特性・困難さ・支援方法の知識・理解	2 — 1	2 — 2	2 — 3	2 — 4
3		3 — 1	3 — 2	3 — 3	3 — 4
4		4 — 1	4 — 2	4 — 3	4 — 4
5		5 — 1	5 — 2	5 — 3	5 — 4
6		6 — 1	6 — 2	6 — 3	6 — 4

試験・レポート等に対するフィードバック	採点したリアクションペーパーを返却し、解説を行う。
---------------------	---------------------------

授業時間外の学習内容（※学習時間は講義1回あたりに必要な時間）			
事前学習	事前にハンドアウト等の資料をダウンロードし、内容を確認する。	時間	15分
事後学習	授業で指示する課題について、文献等を参考にリアクションペーパーを作成して提出する。	時間	45分

授業計画	
第1週 テーマ	ガイダンス：特別支援教育の必要性
第1週 学習内容	・講義の進め方、取り上げる内容、達成目標、リアクションペーパー、期末レポート、成績評価方法等について紹介する。 ・講師の実務経験の紹介を通して、特別支援教育の必要性について紹介する。
第2週 テーマ	障害の概念の変遷と特別支援教育の歴史
第2週 学習内容	・WHO（世界保健機関）による障害の概念の変遷について紹介する。 ・我が国の特別支援教育の歴史について紹介する。
第3週 テーマ	特別支援教育の基礎となる法律・制度やキーワード
第3週 学習内容	・国連の障害者権利条約や障害者差別解消法等の特別支援教育の基礎となっている法律・制度を紹介す

容	る。 ・特別支援教育を推進する上で知っていなければならない障害に基づく差別的取扱、合理的配慮、建設的対話等のキーワードについて解説する。
第4週 テーマ	日本の特別支援教育制度 (オンデマンドにより開講予定)
第4週 学習内容	・現在、日本で行われているインクルーシブ教育システム制度の概要を紹介する。 ・特別支援教育を特徴づけている自立活動等について紹介する。 ・学習指導要領における特別支援教育の位置付けについて紹介する。 ・個別指導計画・個別支援計画の作成の意義、特別支援教育コーディネータの役割、他職種連携の必要性等について紹介する。
第5週 テーマ	視覚障害（弱視を含む）のある幼児、児童及び生徒の理解と支援
第5週 学習内容	・視覚障害（弱視を含む）のある幼児、児童及び生徒の障害特性、学習上又は生活上の困難さ、支援方法（ICT等の支援技術の活用を含む）等について紹介する。
第6週 テーマ	聴覚障害（難聴、言語障害を含む）のある幼児、児童及び生徒の理解と支援 (オンデマンドにより開講予定)
第6週 学習内容	・聴覚障害（難聴、言語障害を含む）のある幼児、児童及び生徒の障害特性、学習上又は生活上の困難さ、支援方法（ICT等の支援技術の活用を含む）等について紹介する。
第7週 テーマ	知的障害のある幼児、児童及び生徒の理解と支援
第7週 学習内容	・知的障害のある幼児、児童及び生徒の障害特性、学習上又は生活上の困難さ、支援方法（ICT等の支援技術の活用を含む）等について紹介する。
第8週 テーマ	肢体不自由のある幼児、児童及び生徒の理解と支援
第8週 学習内容	・肢体不自由のある幼児、児童及び生徒の障害特性、学習上又は生活上の困難さ、支援方法（ICT等の支援技術の活用を含む）等について紹介する。
第9週 テーマ	病弱・身体虚弱のある幼児、児童及び生徒の理解と支援
第9週 学習内容	・病弱・身体虚弱のある幼児、児童及び生徒の障害特性、学習上又は生活上の困難さ、支援方法（ICT等の支援技術の活用を含む）等について紹介する。
第10週 テーマ	自閉症・情緒障害のある幼児、児童及び生徒の理解と支援
第10週 学習内容	・自閉症、情緒障害のある幼児、児童及び生徒の障害特性、学習上又は生活上の困難さ、支援方法（ICT等の支援技術の活用を含む）等について紹介する。
第11週 テーマ	学習障害、注意欠陥多動性障害のある幼児、児童及び生徒の理解と支援
第11週 学習内容	・学習障害、注意欠陥多動性障害のある幼児、児童及び生徒の障害特性、学習上又は生活上の困難さ、支援方法（ICT等の支援技術の活用を含む）等について紹介する。
第12週 テーマ	障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の理解と支援
第12週 学習内容	・障害はないが特別の教育的ニーズのあるある幼児、児童及び生徒の分類、学習上又は生活上の困難さ、支援方法（ICT等の支援技術の活用を含む）等について紹介する。
第13週 テーマ	特別支援教育の最新動向
第13週 学習内容	・文部科学省におけるデジタル化推進プラン（GIGAスクール構想を含む）、学びの場の変化、心のバリアフリーの推進等の特別支援教育に関する最新動向について紹介する。
第14週 テーマ	講義のまとめと特別支援教育の今後の課題
第14週 学習内容	・これまでの講義を振り返り、まとめる。 ・海外との比較や国際的な動向も紹介しつつ、日本の特別支援教育の今後の課題について紹介する。
備考	
備考	

平成27年規程第1号

# ○横浜商科大学教授会運営規程

〔平成27年2月21日〕  
制 定

改正 平成27年9月19日 平成28年8月22日  
平成29年9月16日 平成31年3月23日  
令和4年3月26日

（目的）

**第1条** この規程は、横浜商科大学学則（以下「学則」という。）第47条第4項に基づき、教授会の運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（開催）

**第2条** 教授会は、原則として2か月に1回開催する。ただし、商学部長が必要と認めた場合は、付議すべき事項を示して臨時の教授会を開催することができる。

2 前項の規定にかかわらず、構成員の3分の1以上から、付議すべき事項を示して請求があったときは、商学部長は臨時教授会を開催しなければならない。

（招集）

**第3条** 教授会は、商学部長が招集しその議長となる。

2 商学部長に事故あるときは、あらかじめ学長が指名した教授が代理する。

（構成員）

**第4条** 教授会の構成員は、学則第47条に定める。

（成立要件）

**第5条** 教授会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。ただし、書面をもって他の構成員に委任した者は出席とみなし、成立要件に含めることができる。

2 休職中の者及び長期の欠勤者については、前項の定足数から除く。

（構成員の提案）

**第6条** 教授会の構成員は、教育及び研究に関し教授会に付議すべき事項につき、教授会に提案することができる。

2 前項による提案は、緊急の事項を除き、原則として教授会開催日の5日前までに文書をもって商学部長に提出するものとする。

（決定要件）

**第7条** 教授会の議事は、出席構成員の過半数をもって決定する。

（学長の意見聴取）

**第8条** 学長は、学則第47条で定められた事項のほか、次の各号に掲げる事項を決定するとき、教授会の意見を聴取する。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 学則の定める学年暦、学科科目等の具体的実施に関する事項
- (3) 教育・研究に関する自己点検・評価及び認証評価に関する事項
- (4) 理事長、学長又は商学部長が諮問する事項

2 学長が教授会の意見を聴取するときは、あらかじめ書面をもって通知するものとする。

（構成員以外の出席）

**第9条** 理事長は、教授会に出席して意見を述べることができる。

2 商学部長が必要と認めたときは、構成員以外の者を教授会に出席させることができる。ただし、議決に加わることはできない。

（守秘義務）

**第10条** 教育職員及び事務職員並びに学生の個人情報に関する事項の論議及び検討内容については、他に漏洩してはならない。

（議事録）

**第11条** 教授会の議事については、次の事項を記録した議事録を作成しなければならない。

- (1) 教授会の日時及び場所
- (2) 構成員の現在数
- (3) 教授会に出席した構成員の氏名
- (4) 報告事項
- (5) 論議及び検討事項の内容及びその結果

2 議事録には、商学部長及び商学部長が出席構成員の中から指名した議事録署名人2名が署名しなければならない。署名された議事録は、学務本部長が保管する。

（書記）

**第12条** 教授会に書記を置く。

- 2 書記は、学務本部学生総合支援部教務課が行う。
- 3 書記は、教授会の庶務をつかさどり、議事録を作成する。

（学科会議）

**第13条** 各学科に、学科会議を置き、当該学科の教育及び研究に関する事項について審議する。

2 学科会議は、学科長が招集する。

（総合教養センター）

**第14条** 本学における総合教養教育は、商学部全体を網羅し、学科における「学び」の土台を築くための基礎的な領域そして「商学」を共通項としつつ、学科ごとの「学び」の目的や意義に寄り添った知識、スキル、経験の修得と良き職業人養成に結び付いた「発展系・深化系教養教育」領域から構成されており、この総合教養教育の向上に資するため、教授会に総合教養センターを置く。

2 総合教養センターの業務は、次の事項とする。

(1) 総合教養センターの運営に関すること

(2) 「総合教養教育」のプログラム開発や多様性に関する教育の具体的な課題の取扱及び本学の国際化の推進を図ること

3 総合教養センターに、総合教養センター所長を置き、前項で定める業務を統括する。

4 総合教養センターに、総合教養センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置き、総合教養センターの運営に当たる。

5 総合教養センター運営会議は、次の教育職員及び事務職員によって構成する。

(1) 総合教養センター所長

(2) 総合教養センター副所長

(3) 国際理解・国際交流部門担当教員

(4) 総合教養部門担当教員

(5) キャリア教育部門担当

(6) 総合教養センター担当事務職員

6 総合教養センター所長は、前項第3号の教育職員の中から学長が任命し、運営会議委員長となる。

7 運営会議委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、交替による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

8 運営会議は、運営委員会委員長がこれを招集し、その議長となる。また運営会議が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（教職センター）

**第15条** 本学の教職課程における教育内容の向上に資するため、教授会に教職センターを置く。

2 教職センターの業務は、次の事項とする。

(1) 教員養成教育の運営及び実施に関すること

(2) 教職キャリア教育に関すること

(3) 地域の教育機関との連携に関すること

(4) その他教職課程における教育の向上のための業務

3 教職センターに、教職センター長を置き、前項の業務を統括する。

4 教職センターに、教職センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置き、教職センターの運営に当たる。

5 運営委員会は、次の教育職員及び事務職員によって構成する。

(1) 教務専門部会長

(2) 教職課程を置く各学科長

(3) 教職課程担当教育職員

(4) 学務本部長

(5) 学務本部学生支援部教務課教職担当事務職員

6 教職センター長は、前項第3号の教育職員の中から学長が任命し、運営委員会委員長となる。

7 運営委員会委員の任期については、第14条第7項の規定を準用する。

8 運営委員会は、運営委員会委員長がこれを招集し、その議長となる。また運営委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（改廃）

**第16条** この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長が行う。

2 前項の規定に基づき改廃の決定をするとき、理事長は、学長の意見を聴取するものとする。

3 前項の規定に基づき意見を述べようとするとき、学長は、あらかじめ大学運営会議の意見を聴取するものとする。

#### 附 則

1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、横浜商科大学商学部運営規程（昭和50年5月1日）は、廃止する。

#### 附 則（平成27年9月19日規程第18号）

この規程は、平成27年10月1日から施行する。

#### 附 則（平成28年8月22日規程第27号）

この規程は、平成28年8月31日から施行する。

#### 附 則（平成29年9月16日規程第24号）

1 この規程は、平成29年9月16日から施行する。

2 この規程の施行日において学科長、先端教育開発研究所運営委員、英語専門部会委員、教職センター運営委員会委員である者（以下「委員等」という。）の任期は、改正後の本則第13条第4

項の規定（同項を準用する規定を含む。）にかかわらず、それぞれ平成 29 年度末までとする。  
また、この規程の施行日以降平成 29 年度末までの間に新た委員等に就任した者の任期についても同様とする。

**附 則（平成 31 年 3 月 23 日規程第 15 号）**

この規程は、平成 31 年 3 月 23 日から施行する。

**附 則（令和 4 年 3 月 26 日規程第 5 号）**

- 1 この規程は、令和 4 年 3 月 26 日から施行する。
- 2 この規程の施行に伴い、横浜商科大学学則第 4 5 条第 2 項第 3 号の教授会の意見を聴くことが必要な事項を定める学長裁定（平成 27 年 4 月 15 日制定）は、廃止する。

## 2021年度入学生 教職課程について

本学では、教育職員免許法および同法関係法規に基づいて、教職課程を開設し、所定の単位を修得することにより、高等学校教諭一種免許状（商業）を取得することができます。

教職課程を履修する学生は、事前に大学に教職課程履修登録した上で履修をおこなってください。

### 免許状取得のための基礎資格および関係科目と必要単位数

- (A) **基礎資格** 学士の資格を有すること（本学を卒業することで得られます）  
 (B) **大学において修得を必要とする単位**

- (1) 教科及び教科の指導法に関する科目 24 単位以上  
 (2) 教科または大学が独自に設定する科目 16 単位以上

必修 12 単位（教科及び教科の指導法に関する科目）と選択科目（教科及び教科の指導法に関する科目、大学に独自に設定する科目より）を併せて 36 単位以上を修得することで必要単位数を満たすことができる。

- (3) 教育の基礎的理解に関する科目等 23 単位以上  
 (4) 文部科学省令（教育職員免許法施行規則第 66 条の 6）で定める科目
- |                                              |      |
|----------------------------------------------|------|
| 日本国憲法                                        | 2 単位 |
| スポーツ演習                                       | 2 単位 |
| English Conversation 1 及び 2 または 中国語会話 3 及び 4 | 2 単位 |
| コンピュータ活用 1 及び 2                              | 2 単位 |

### 教育実習

「教育実習」は、通常 4 年次に各自の出身校または本学の協力校に委嘱しておこなわれます。

「教育実習」の出自要件

- (a) 卒業年次生であること  
 (b) 卒業要件 124 単位のうちカリキュラムの各プログラム科目と教職課程に該当する科目をあわせて 100 単位以上取得していること。  
 (c) 「教育の基礎的理解に関する科目」を原則として 6 科目以上修得していること。  
 (d) 「教育実習講義」を受講済みであること。  
 (e) 4 年次生対象の「教育実習事前指導（毎年 4 月中旬実施）」に出席すること。

以上の要件を満たさない場合、教職課程の履修を取りやめたとみなします。また、本学が「教育実習」に不適切と認めたものは、教育実習に出講させないことがあります。

### 教育職員免許状

教育職員免許状の申請は、授与権者である神奈川県教育委員会へ大学が一括して手続をおこないます。なお、教育職員免許状は学位授与式時に交付します。

### 履修の方法

教職課程の科目には卒業要件、履修制限に含まれない科目があります。

履修計画の作成には、「教育の基礎的理解に関する科目」の履修を極力優先し、教科及び教科の指導法に関する科目、大学が独自に設定する科目や他の選択科目は

次セメスター以降の履修としてください。（必修科目と重複した場合は、教職担当者に相談してください。）

## ※履修申請の方法

種類	科目	申請方法
履修制限、卒業要件に含まれない科目	○教育の基礎的理解に関する科目 ○商業科教育法 ○大学が独自に設定する科目	Webによる申請 (履修制限範囲外)
履修制限、卒業要件に含まれる科目	○教育職員免許状施行規則第66条に定める科目 ○教科及び教科の指導法に関する科目 (商業科教育法を除く)	Webによる申請 (2~3年次 20単位 ・4年次 24単位以内)

教職課程の履修希望者は、各学期の履修を Web で申請する際に、教職課程科目の申請も行ってください。

なお、教職課程の申し込みは、教務課前の証明書発行機にて行います。4月8日から履修修正期間までに、登録料 20,000 円の納入のうえ、印刷された「教職課程履修登録申込書」を教務課まで提出してください。

証明書発行機の入金・登録申込書の期限： 4月15日(金) 16時まで

以上

## ※履修申請の方法

種類	科目	申請方法
履修制限、卒業要件に含まれない科目	○教育の基礎的理解に関する科目 ○商業科教育法 ○大学が独自に設定する科目	Webによる申請 (履修制限範囲外)
履修制限、卒業要件に含まれる科目	○教育職員免許状施行規則第66条に定める科目 ○教科及び教科の指導法に関する科目 (商業科教育法を除く)	Webによる申請 (2~3年次 20単位 ・4年次 24単位以内)

教職課程の履修希望者は、各学期の履修を Web で申請する際に、教職課程科目の申請も行ってください。

なお、教職課程の申し込みは、教務課前の証明書発行機にて行います。4月8日から履修修正期間までに、登録料 20,000 円の納入のうえ、印刷された「教職課程履修登録申込書」を教務課まで提出してください。

証明書発行機の入金・登録申込書の期限： 4月15日(金) 16時まで

以上

## 高等学校一種「商業」の教科及び教科の指導法に関する科目と単位数

## (1) 「商業」教科及び教科の指導法に関する科目（商学科）

科目区分	科目の 各に 含む るが 必要 事項	授業科目	履修 年次	単 位 数 必 要	必修	選択	備考	
教科に関する専門的事項	商業の関係科目	社会学	1	1		2	学部基礎プログラム	
		商学 1	1		2		学部基礎プログラム ・専門基礎	
		商学 2			2			
		経営学 1				2		
		経営学 2				2		
		会計学 1				2		
		会計学 2				2		
		簿記論 1				2		
		簿記論 2				2		
		経営情報学 1				2		
		経営情報学 2				2		
		経済学 1				2		
		経済学 2				2		
		民法 1				2		
		民法 2				2		
		マーケティング論 1		2	24			2
		マーケティング論 2				2		
		商品企画論				2		
		戦略的経営論 1				2		
		戦略的経営論 2				2		
		経営管理論				2		
		経営史				2		
		経営組織論				2		
		人的資源管理論				2		
		国際経済と貿易				2		
		財務諸表論 1				2		
		財務諸表論 2				2		
		工業簿記 1				2		
		工業簿記 2				2		
		税務会計 1				2		
		税務会計 2		2				
		マクロ経済学		2				
		ミクロ経済学		2				
		金融論		2				
		保険論		2				
		商法 1		2				
商法 2		2						
会社法 1		2						
会社法 2		2						

		貿易ビジネスの実務 1			2	フロンティアフォーラム
		貿易ビジネスの実務 2			2	
		中小企業の組織とマネジメント			2	
		中小企業経営とICT			2	
		会計監査論 1	2		2	
		会計監査論 2			2	
		税法 1			2	
		税法 2			2	
	教職科目	職業指導 1	3		2	専門フォーラム
		職業指導 2	3		2	
各教科の指導		商業科教育法	3		4	教職科目
計	本表の必修 12 単位+※選択科目（本表と表 3）あわせて 36 単位以上を履修すること ※選択科目（1）教科及び教科の指導法に関する科目（本表） （3）大学に独自に設定する科目（次ページ）				12	90

## (2) 教育の基礎的理解に関する科目等 (商学科)

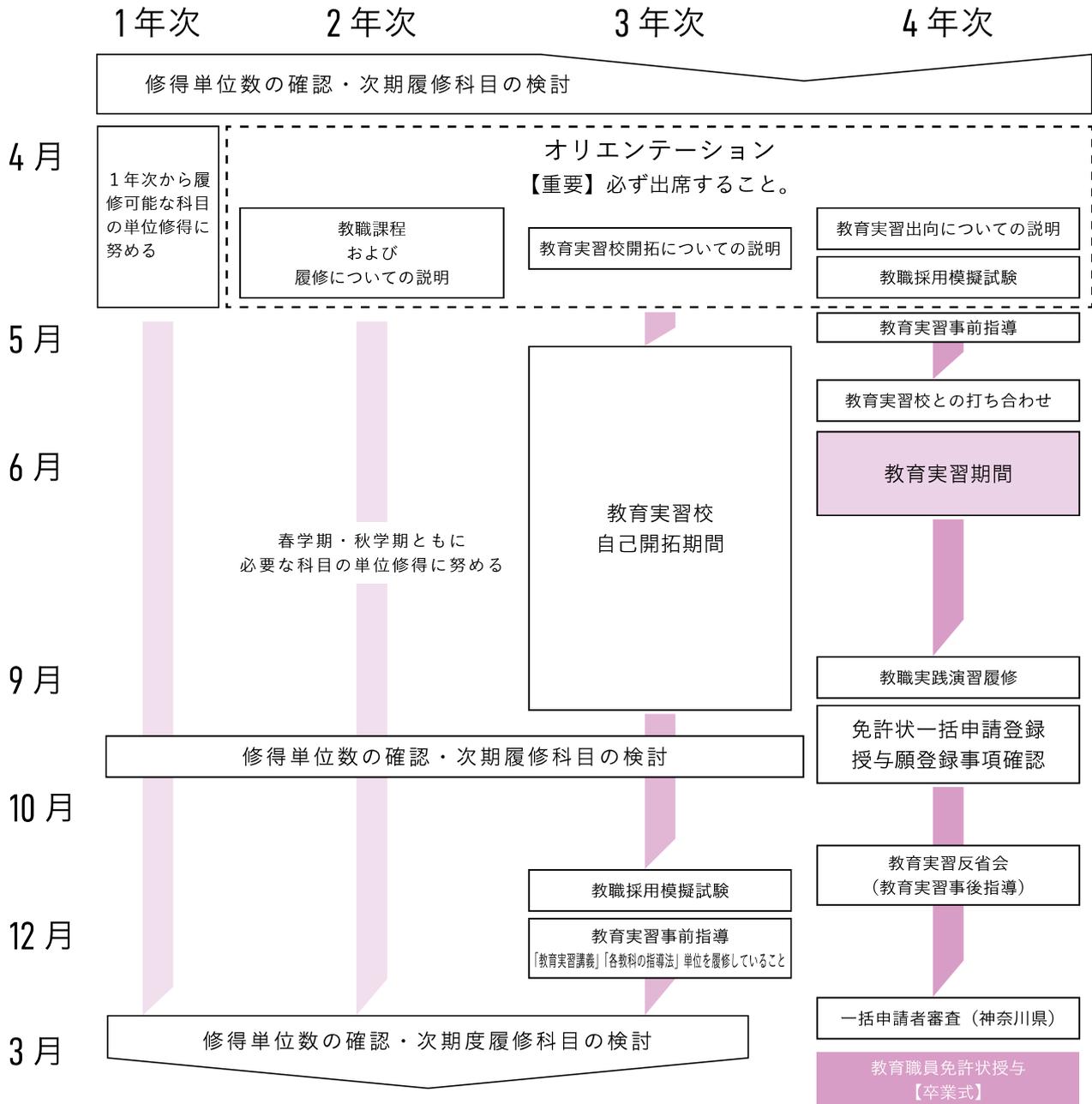
教職に関する科目	左項の各科目に含めることが 必要な事柄	高等学校教諭第一種免許状			
		開設授業科目	履 年 次	必 要 単 位 数	必 修
教育の基礎的理解 に関する科目	教育の理念並びに教育に関する 歴史	教育の思想・歴史及び教育 課程	2	10	2
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを				
	教職の意義及び教員の役割・職務 内容(チーム学校運営への対応を 含む。)	教師論	2		2
	教育に関する社会的、制度的又は 経営的事項(学校と地域との連携 及び学校安全への対応を含む。)	教育の行政及び学校経営	2		2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達 及び学習の過程	教育心理学	2		2
	特別の支援を必要とする幼児、児 童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2		2
22 道徳、総合的な 学習の時間等の指 導法及び生徒指導、 教育相談等に関す る科目	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学 習の時間の指導法	2	8	2
	特別活動の指導法				
	教育の方法及び技術(情報機器及 び教材の活用を含む。)	教育方法論	2		2
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導の理論と方 法	2		2
	進路指導及びキャリア教育の理 論及び方法				
	教育相談(カウンセリングに関す る基礎的な知識を含む。)の理論 及び方法	教育相談	2		2
教育実践に関する 科目	教育実習	教育実習講義	3	5	3
		教育実習	4		
	教職実践演習	教職実践演習	4		2
合計(23単位必修)				23	23

## (3) 大学が独自に設定する科目 (商学科)

教科または教職に関する科目	科目名	履 年 次	必 要 単 位 数	選 択
大学が独自に設定する科目	道徳教育の研究	2		2
	青年心理学	2		2
計(4単位選択)				

(参考)

教職課程登録から免許状授与までの流れ

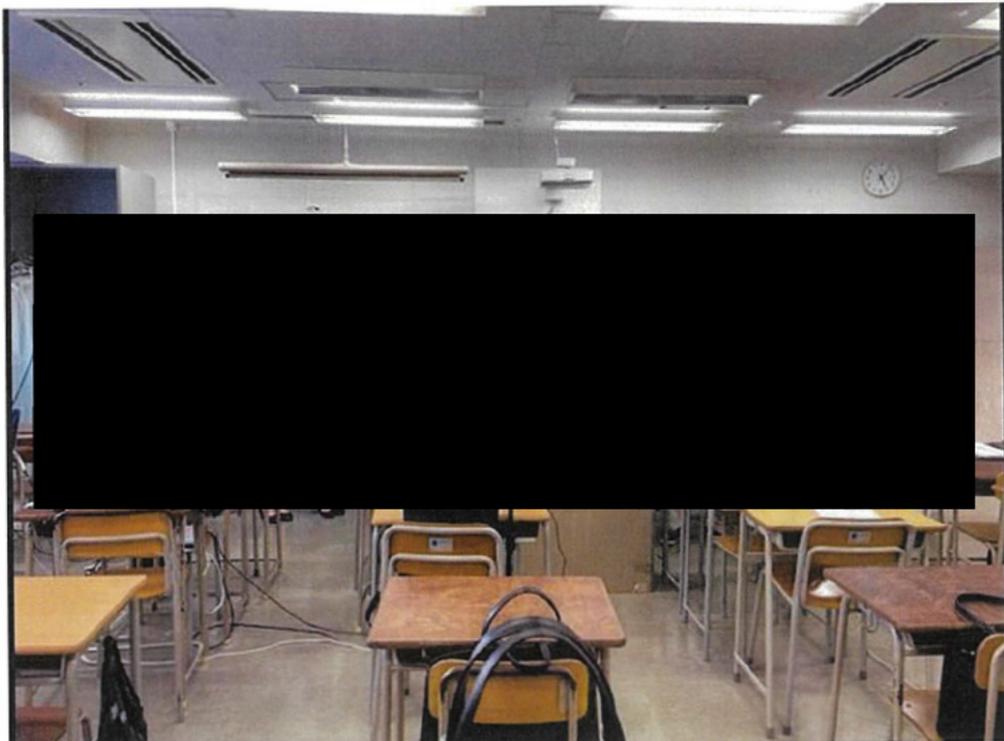


2022年9月20日

## 2022年度 同窓会教員支部主催 教職研修会（夏） 実施報告

### 【研修会スケジュール】

9:00	開式	
9:10	自己紹介	(2) 自己紹介 研修会の最初に、一人1分以内で自己紹介をしてもらいます。
9:25	教育実習報告：6名	(3) 「4年生」教育実習報告 第1回研修会で6名、第2回研修会で5名が報告することとなりました。
10:55	休憩	
11:05	模擬授業	第1回で報告するのは、 ■
11:50	お昼休憩	■
12:30	模擬授業	■
13:15	休憩	■
13:20	模擬授業	■
14:05	休憩	■ なります。
14:10	模擬授業	
14:55	休憩	持ち時間は 人15分です。 ・実習校の特徴 ・実習の基本情報：実習期間や科目担当などは必ず報告するようにしてください。
15:05	模擬授業講評	
15:55	同窓会教員の講演	(4) 「3年生」教育実習報告 第1回研修会で4名、第2回研修会で3名が報告することとなりました。
16:45	写真撮影	・第1回研修会 ■
17:00	終了予定	



【資料3】

2022年度 同窓会教員支部主催 教職研修会（冬）実施報告

開催日時 2023年 1月21日（土）  
10:40～17:00

場所 横浜商科大学 つるみキャンパス 234教室

出席者 同窓会教員支部 7名（1名オンライン）  
商大教職員 4名（1名商大教員OB ████████先生）  
学生 4年生 10名  
3年生 7名  
2年生 7名

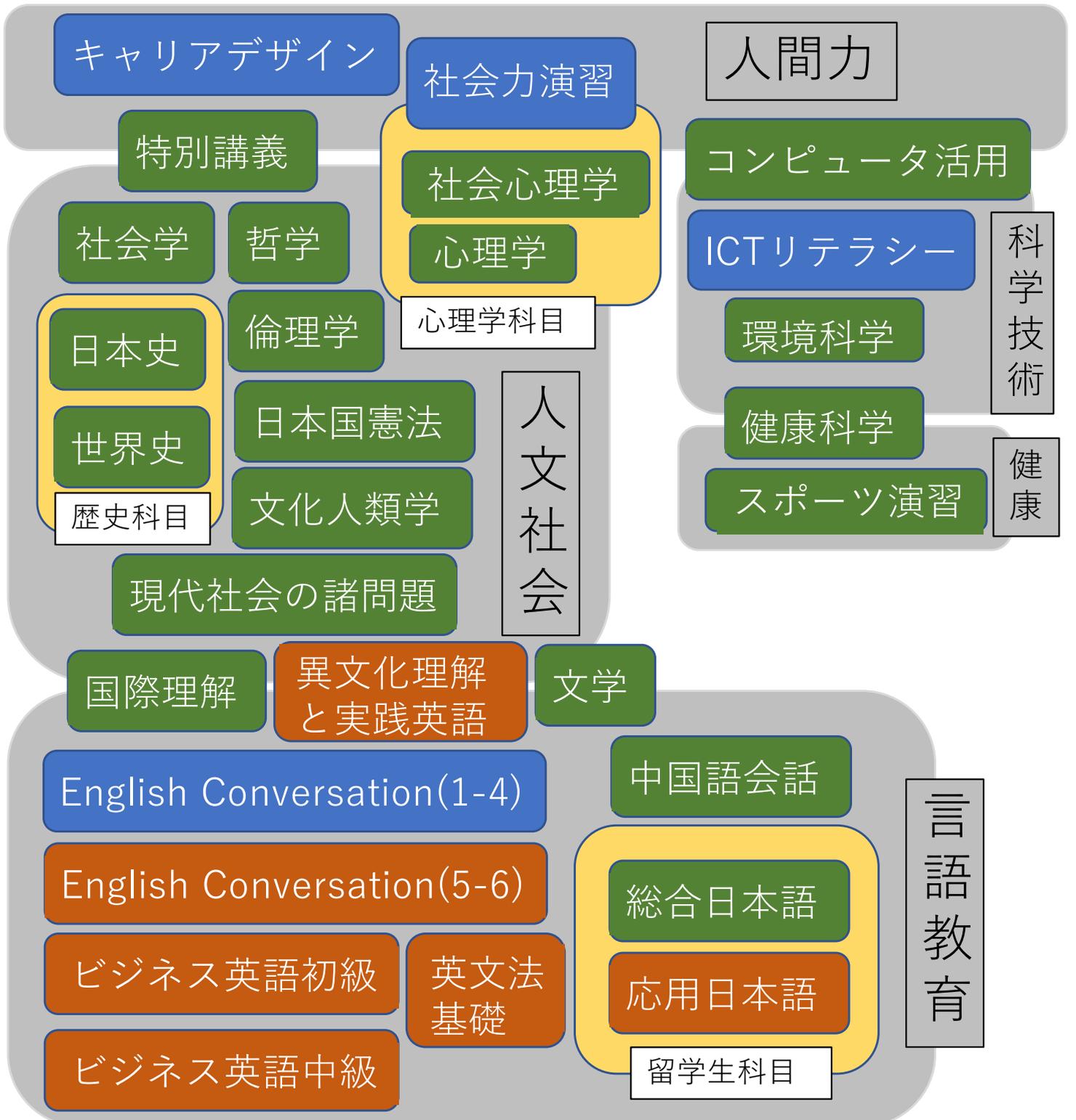
研修内容 学生（4年）教育実習報告 （4名）  
学生（3年）模擬授業（商業） （3名）  
同窓会教員支部教員からの指導・助言

	開始	終了	time	内容
1	10:40	10:55	0:15	開式・参加者紹介
2	10:55	11:15	0:20	教育実習報告：██████
3	11:15	11:35	0:20	教育実習報告：██████
4	11:35	11:55	0:20	教育実習報告：
5	11:55	12:15	0:20	教育実習報告：
6	12:15	13:00	0:45	お昼休憩
7	13:00	13:40	0:40	模擬授業：██████
8	13:40	13:45	0:05	休憩
9	13:45	14:25	0:40	模擬授業：██████
10	14:25	14:30	0:05	休憩
11	14:30	15:10	0:40	模擬授業：██████
12	15:10	15:20	0:10	休憩
13	15:20	16:00	0:40	模擬授業講評
14	16:00	16:30	0:30	同窓会教員によるアドバイス
15	16:30	16:45	0:15	総括・記念撮影
16	17:00			整頓・解散予定時刻

# 総合教養センター担当科目 相互関係図

【教育目的】コミュニケーション能力の向上とともに、学生の専攻とは異なる分野の教員の講義を受けることで他分野の先端知識や課題を知り、視野の広い人材の育成につなげる。

■ 社会力基礎科目(24)   
 ■ 総合基礎科目(10)   
 ■ 学部自由選択科目(10)



教職課程 履修マップ

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目

	1年		2年				3年		4年	
総合基礎	社会学 (選択) 2単位									
学部基礎	商学基礎 (必修) 2単位	経済学基礎 (必修) 2単位								
学部専門	マーケティング1 (選択) 2単位	会計学1 (選択) 2単位	マクロ経済学 (選択) 2単位	ミクロ経済学 (選択) 2単位	会計学2 (選択) 2単位	経営学2 (選択) 2単位				
	経営学1 (選択) 2単位	民法1 (選択) 2単位								
学科基本	ビジネスとAI (選択) 2単位	初級簿記1 (選択) 2単位	マーケティング2 (選択) 2単位	工業簿記 (選択) 2単位						
	初級簿記2 (選択) 2単位									
学科専門			会計監査論 (選択) 2単位	会社法2 (選択) 2単位	経営管理論 (選択) 2単位	経営組織論 (選択) 2単位				
			財務諸表論 (選択) 2単位	財務諸表分析 (選択) 2単位	商品開発論 (選択) 2単位	人的資源管理論 (選択) 2単位				
			租税法1 (選択) 2単位	租税法2 (選択) 2単位	税務会計 (選択) 2単位	戦略的経営論 (選択) 2単位				
			保険論 (選択) 2単位	民法2 (選択) 2単位	金融論 (選択) 2単位	中小企業論 (選択) 2単位	職業指導1・2 (必修) 2単位	商業科指導法 (必修) 4単位		

※この2科目は本学で3年に設

(2) 教育の基礎的理解に関する科目等

学年進行	1年		2年				3年		4年	
専門性 低い ↑ 高い	スポーツ演習 (必修) 2単位	日本国憲法 (必修) 2単位								
	コンピュータ活用 1・2 (必修) 計2単位	語学 (必修) English Conversation 1・2 (必修) 計2単位								
			教師論 (必修) 2単位							
			教育の思想・歴史 及び教育課程 (必修) 2単位	教育心理学 (必修) 2単位	特別支援教育 (必修) 2単位	教育の行政及び 学校経営 (必修) 2単位				
		特別活動及び総合的 な学習の時間の指導 法 (必修) 2単位	生徒・進路指導の 理論と方法 (必修) 2単位	教育相談 (必修) 2単位	教育方法論 (必修) 2単位					
		道徳教育の研究 (選択) 2単位	青年心理学 (選択) 2単位					教育実習講義 (必修)	教育実習 (必修) 計3単位	教職実践演習 (必修) 2単位

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目

- 各教科の指導法 (通年)  
(情報機器及び教材の活用を含む)
- 教科に関する専門的事項 (教職科目)

必修12単位      選択36単位以上

(2) 教育の基礎的理解に関する科目等

- 教育の基礎的理解に関する科目
- 道徳、総合的な学習の時間等の指導法  
及び生徒指導、教育相談等に関する科目
- 教育実践に関する科目
- 大学が独自に設定する科目 (選択)
- 教員免許法施行規則第66条の6に定める科目



# 子育て 相談

いつでも気軽にご相談を！

学校心理士の資格をもつ教員が対応します。相談の間、本学の学生がお子様と一緒に遊ぶこともできます！

- ▶ 就学・勉強・友達関係・しつけ・受験・学校との関係…
- ▶ 相談費用：無料
- ▶ 相談方法（オンライン・対面）を決めて、スタート！

まずはメールをください。

[y-kochi@shodai.ac.jp](mailto:y-kochi@shodai.ac.jp)

※メールは 24 時間受付

QR コードからの申し込みも可能 ⇒



写真はすべてマイクロソフト社の著作権フリー画像より取得したものです



卒業者の教員免許状取得状況（2022年5月1日現在）

○学士課程

学部	学科	入学年度	卒業生数	免許状取得者実数	高等学校一種免許状（商業）	高等学校一種免許状（情報）	教員採用人数	備考
商学部	商学科	2014	233	1	1		1	
	経営情報学科			2	1	1	2	
	商学科	2015	248	5	5		0	科目等履修生1
	経営情報学科			2	2	2	1	
	商学科	2016	245	3	3		0	
	経営情報学科			2	1	1	0	
	商学科	2017	278	1	1		0	
	経営情報学科			1		1	0	
	商学科	2018	337	3	3		1	科目等履修生1
経営情報学科	1			1		0		

教職課程における科目別担当教員について

○教育の基礎的理解に関する科目等

教育の思想・歴史及び教育課程/旧 教育原論1	東風 安生 教授
教師論	東風 安生 教授
教育の行政及び学校経営/旧 教育原論2	兼任講師
教育心理学	大島 研介 専任講師
特別支援教育	兼任講師
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	東風 安生 教授
教育方法論(ICT活用含む)/教育方法論	兼任講師
生徒・進路指導の理論と方法	東風 安生 教授
教育相談	兼任講師
教育実習講義	兼任講師
教育実習	兼任講師
教職実践演習	東風 安生 教授

○大学が独自に設定する科目

道徳教育の研究	兼任講師
---------	------

○教科及び教科の指導法に関する科目

ビジネスとAI/経営情報学1	榎本 真俊 専任講師
マーケティング1/マーケティング 論1	内田 学 教授, 諸上 詩帆 教授, 若林 宏保 教授, 渋瀬 雅彦 准教授
マーケティング2/マーケティング 論2	内田 学 教授, 諸上 詩帆 教授, 若林 宏保 教授, 渋瀬 雅彦 准教授
マコ経済学/旧 マコ経済学I	佐藤 浩之 准教授, 兼任講師
ミコ経済学/ミコ経済学II	佐藤 浩之 准教授, 兼任講師
会計学1/旧 会計学I	遠谷 貴裕 専任講師, 鈴木 雅康 専任講師
会計学2/旧 会計学II	鈴木 雅康 専任講師
会計監査論/会計監査論1	高津 勝 特任教授, 兼任講師
会社法1/旧 会社法I	兼任講師
会社法2/旧 会社法II	兼任講師
金融論/旧 金融論I	津山 智行 特任教授
経営学1/旧 経営学I	内田 学 教授, 脇 拓也 准教授
経営学2/旧 経営学II	内田 学 教授, 脇 拓也 准教授
経営管理論/旧 経営管理論I	脇 拓也 准教授
経営組織論/旧 経営組織論I	兼任講師
経済学1/旧 基礎経済学I	兼任講師
経済学2/旧 基礎経済学II	兼任講師
経済学基礎	佐藤 浩之 准教授, 津山 智行 特任教授
工業簿記/工業簿記1	高津 勝 特任教授, 鈴木 雅康 専任講師
国際経済学/国際経済と貿易	伊藤 穰 教授
財務諸表分析/財務諸表論2	遠谷 貴裕 専任講師
財務諸表論/財務諸表論1	遠谷 貴裕 専任講師, 兼任講師
社会学/旧 社会学I	加藤 英一 教授
初級簿記1/簿記論1	遠谷 貴裕 専任講師, 鈴木 雅康 専任講師
初級簿記2/簿記論2	遠谷 貴裕 専任講師, 鈴木 雅康 専任講師
商学基礎/商学1	若林 宏保 教授
商学基礎/商学1	若林 宏保 教授, 兼任講師

商業科教育法	兼任講師
商取引法/商法1	兼任講師
商品開発論/商品企画論	若林 宏保 教授
商法2/旧 商法II	兼任講師
職業指導1	兼任講師
職業指導2	兼任講師
人的資源管理論/旧 人的資源管理論I	田中 聖華 教授
税務会計/税務会計1	高津 勝 特任教授,兼任講師
戦略的経営論/戦略的経営論1	内田 学 教授,脇 拓也 准教授
租税法1/税法1	佐藤 義文 教授,兼任講師
租税法2/税法2	佐藤 義文 教授,兼任講師
中小企業論/中小企業の組織とマネジメント	兼任講師
保険論/旧 保険論I	兼任講師
民法1/旧 民法I	亀井 隆太 准教授
民法2/旧 民法II	亀井 隆太 准教授